

事業の趣旨ふまえた検討を！

区画整理記念事業「ワーキング」始まる

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―一九九二）の足跡を記念施設として残そうという計画の骨子（弁天町駅前に交流会館と拠点病院を一体で整備）が決定されたのを受け、交流会館の事業内容などを区役所と共に検討するワーキングメンバー二十三名（公募区民十九名、区長推薦委員四名）の第一回会合が八月二日に行なわれました。今年度中に、あと二回の会合が予定されていますが、港区の歴史と同事業の趣旨をふまえ、これまでの区民論議で出された「歴史展示こそ施設の核に」などの声に沿った検討が期待されます。第一回会合の様子から今後を探ってみました。

交流・防災も大事だが…歴史展示こそ施設の核に

検討ワーキングメンバーの第一回会合は八月

名が参加しました。

二日（月）夜、港区役所で開催。二十三名中十九

◆区長は「港区の歴史」を強調

冒頭、田端尚伸・港区長があいさつ。この中で区長は「港区は昭和十八年に現区域になり、

市内最多人口を誇ったが、終戦直後には九千足らずまで減少した。『大阪市の復興は港から』と昭和二十三年から平成四年まで四十五年をかけた『港地区復興土地区画整理事業』が実施され、区域の約九割を約「盛り・高上げする」という『港地区復興土地区画整理事業』が実施され、減歩率（自分の土地を公共のために提供した割合）四割超という地権者らの涙ぐましい貢献も得て完成。安全で住みやすい街になった」と区画整理の歴史を簡潔に振り返ったあと、「地権者に返すべき土地は『大阪市に預けるから記念事業に使う』といつことになり、それを売却して得た三十七億円と（売却しなかった）弁天町駅前の一〇八五平方メートルを大阪市に移管した。それを使って記念事業をしよう」と平成四年から内



→戦後港区の区画整理の歴史を強調し、活発な議論を呼びかける田端尚伸区長 〓八月三日夜

容が検討されたが、なかなか決まらなかった。が、昨年、大阪市各局のもとにある区内の公共施設を再編整備し、世代間交流拠点として区役所が一体的・効率的に管理しよう、図書館もここへ移そう、という方向へ舵が切られた。そこへ築港の大阪みなと中央病院の建て替えプランが明らかになり、その移転と連携し、地域医療や災害時医療の拠点、在宅医療の拠点としても整備・運営していくことになった」と記念事業にまつわる経緯を報告。その上で「では具体的に、その中身をどうするのか、ということでお集まり頂いた。戦後七十年に議論がスタートするのも意義深い。ぜひ活発な議論を」と呼びかけました。

◆ニグループで議論

続いて区役所から、この記念事業のこれまでの経緯や検討ワーキングの目的、この事業の中で再編整備される四施設（老人福祉センター、子ども・子育てプラザ、区民センター、図書館）の現状、また様々な機能が複合的に入った他都市の施設の事例について、それぞれ説明が行なわれました。



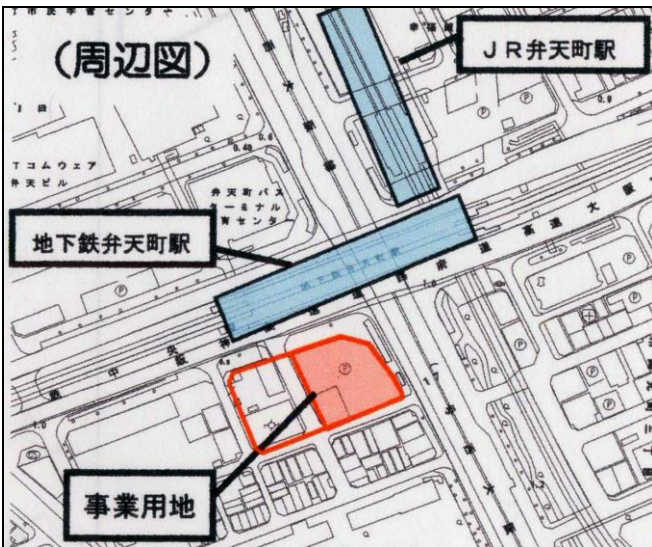
←検討ワーキングメンバー十九名がニグループに分かれての議論風景 〓港区役所五階

このあと若干の質疑応答があり、続いて第二回会合ということで、とりあえずニグループに分かれての議論が提案・了承され、その形で進められました。各グループ討議の進行役は企画会社（株）地域計画建築研究所「社員」に託されました。そうして約四十分にわたってグループ議論が

行なわれたあと、各グループ代表から次のように議論内容の発表がありました。

◆「人呼べる施設に」など

第一グループからは「弁天町駅前に建つというところで、港区の看板になり、港区に人を呼ぶきっかけになれば」と期待する。「そのための駐車・駐輪場の無料化や、地下鉄だけでなくJRとの連絡の円滑化なども講じるべき」「エントランス



↑ 区画整理記念事業の周辺図

をガラス張りで広く明るく、演奏会や大道芸にも使えるように」「親子で料理・音楽・スポーツ・各種技術などを学べる場があればよい」「隣接する病院とのつながりを生かせる構造に」「障がい者が使いやすい施設に」などの意見があったことが報告されました。

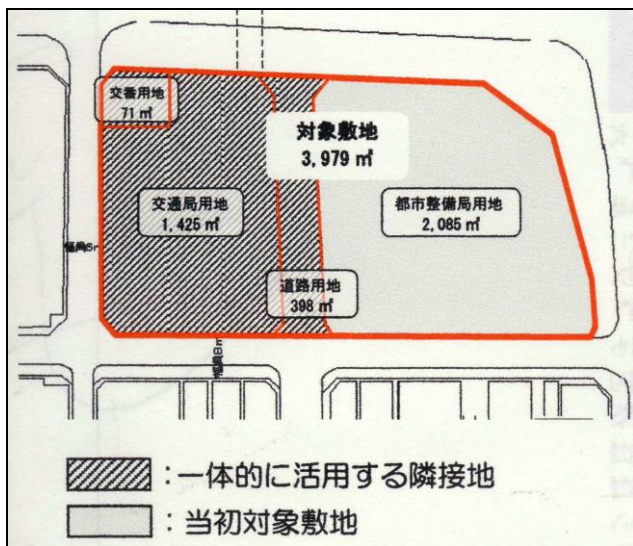
◆「歴史展示は最小に」など

第二グループからは「隣接する病院との間に五階くらいで渡り廊下があれば防災面で有効だ」と「区画整理の歴史を展示するスペースは、他に影響を及ぼさない程度の最小限に抑えるべきだ」「世代間交流施設は、あらゆる世代が横断的に交流できる、それぞれのライフステージの方々が入りまじる状況のほうが好ましい」などの意見があったことが報告されました。

◆「収益上がるように」など

第三グループからは「本を注文したらすぐ取り寄せてもらえ、自習室もある図書館」「ア・マ・プロの芸術家が有料イベントを開催したり、貸し農園やそこで採れた野菜の調理・販売スペースを設けたり、太陽光発電をしたりして若干の収益が上がるように」「リタイアした人や障が

↑ 区画整理記念事業の敷地図



い者が働ける場を設けられないか」「コストのかからない設計に」などの意見があったことが報告されました。

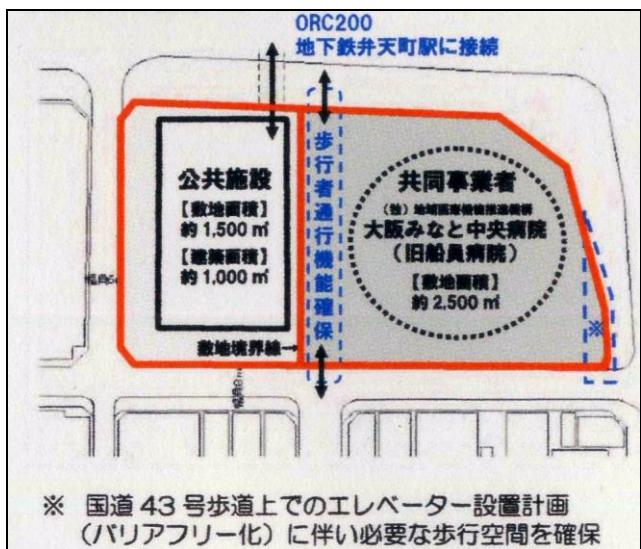
これらの報告をつけて区役所から「いただいた意見の中で具体的な内容についてお聞き、次回以降の議論に役立てていきたい」との呼びかけがありました。

◆「防災面を考えたい」とメンバー男性

終了後、ワーキングメンバーの男性（公募委員）は「港区の防災に関心があり、メンバーに応募しました。避難施設に限りがある中、弁天町は必ず港区の防災の核になります。その機能をこの施設で」まで確保し、なおかつ世代間交流など平時の使い方も折り合いをつけるか、難しいところであり、またハード面の書き真がない中で細かい議論をしても徒勞（とらう）に終わるのではないかと心配もありますが、考えていきたいと思います。また区画整理の歴史についてはインターネットなどで調べたら済むところであり、その展示にスペースを取られるくらいならほかに使ったほうが良（よ）い（ミニмум（最小）にと主張しました」と話していました。

◆「意見交換よかった」とメンバー女性

同じくメンバーの女性（公募委員）は「子供関係のイベントに参加している関係で、区役所からメンバー入りを勧められました。今日の議論では、完成後のランニングコストや収益性も考えて屋上庭園や自然食食堂などを、また障がい者が車いすで自由に入出りできる交流スペースなどを提案しました。区画整理の歴史について



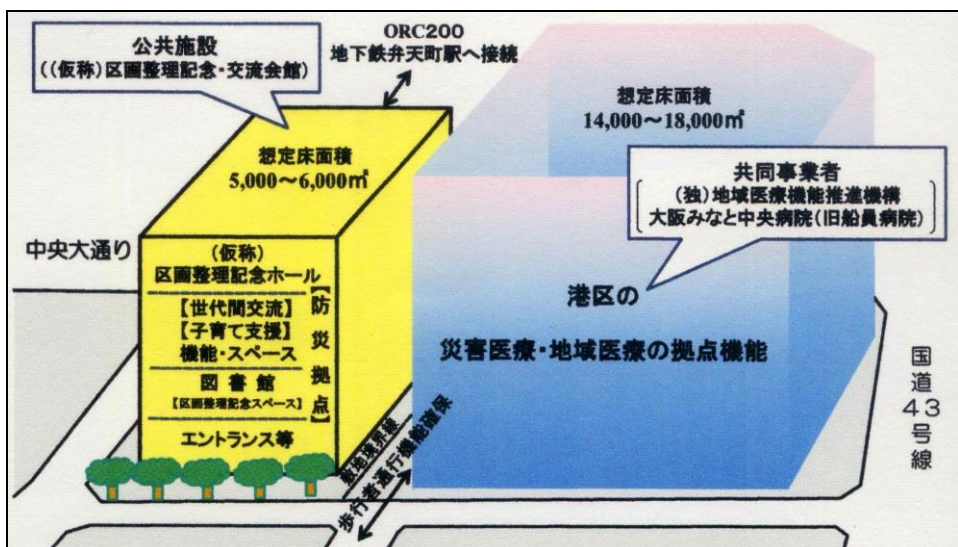
は、皆さん余り関心がないと思うので、展示スペースはできるだけ小さい方がよいと思います。また外国の方とのトラブルも考えられるので、利用は登録制が良いのではないのでしょうか。会合の進め方という点では、今日は最初の質疑に時間を取られてグループ議論が削られるなど時間配分が悪かったこと、またグループ発表では発表者の個性が出ずぎで一面的だったことなど

改善すべき点があるようです。でも病院が隣にあつて安心でき、世代間交流が期待できる楽しい施設。全体としては、活発な意見が交わされ、良かったと思います」と話していました。

◆「趣旨はズレていて傍聴者

一方、傍聴者の一人は「活発な議論がされていたのは良かったと思います。ただ、その中身については疑問と不安が残りました。というのは、この記念事業の趣旨からはズレたところに関心が集まっていたように思われるからです。最初に区長が、港区の戦後復興を担った区画整理の歴史にふれ、それを継承するためにこの事業はあるのだと強調されていたにもかかわらず、実際の議論では、その『何のために』『何を重点に』が忘れられ、『何をどう作るか』ばかりに意見が集中していたように思いました。確かに交流や防災という機能も大切ですが、何よりも、

港区の区画整理の歴史を区民の心にとめて、次世代が誇りを持って今後の街づくりを進めていくための拠（よ）り所（ところ）となるような施設であるべきです。そのためには区画整理の歴史を誰にも分かるような形で展示するスペースをいそ中心に考える



→ 記念・交流会館の施設整備イメージ(あくまでイメージであり建物の形態などは今後の設計や関係先との協議を経て決定)

べきではないでしょうか。議論の中では、それを最小限にといつような意見まで出され、^{あぜん} 唖然となりました。この記念事業を、その趣旨をふまえた本心に実りあるものにするためにも、自由な議論は保証しつつも、いつた流れに任せず、あるべき方向へ軌道修正されるよう、区役所や心あるメンバーは意識的に取り組んでほしいと思います」と話していました。

◆「進行役は区役所が」と傍聴者

また別の傍聴者は「活発な議論に感心しました。グループ論議というのは方法としては悪くないと思います。が、その進行役を、記念事業や港区のことを一番よく知っている区役所職員ではなく、なぜわざわざ「スト」をかけて民間の会社にやらせたのでしよう。記念事業の重点からはずれたような意見がたくさん出たのは、一つにはこんなところに原因があったのではないのでしょうか、公がやるべきところまで、何でも民間にやらせるという、橋下市長の安易な経営感覚の姿勢が、こいつつ面にも表われているように思いました」と話していました。

本紙主張

根本検証や見直しも

区民本位の施設へ勇気ある議論を

以上の第一回会合を手始めに、今年度中にあると三回の会合を経て、ワーキングメンバーと区役所が、交流会館の事業内容などを検討・決定するわけですが、傍聴者の声にもあったように、単に「どんな交流施設にするか」だけでなく、何よりも港区の歴史をふまえ、同事業の趣旨をふまえて、港区が誇る戦後の土地区画整理事業の歴史展示こそ核とした検討が期待されます。そして可能ならば、なお欠の内容をも勇気をもって議論にのせることが求められます。なぜなら、これらには過ぎたこと、あるいはほぼ決まったことも含まれますが、今後の種々の区民事業で、過去及び現在進行中の轍を踏まないため、何よりもこの記念事業を少しでも区民本位にするために、極めて重要な内容が含まれると思われるからです。

歴史 四十数年にわたる区画整理事業の経過



→ 焼け跡から水害に強い港区の土台を造った
「港地区復興土地区画整理事業」（昭和二十年
代後半～三十年代前半の地上げ風景より）

と成果をもつ一度整理すると共に、その否定的側面とされる諸問題（自動車社会のために水運や景観を犠牲にした運河の埋め立て、防災のために自然との連続性や景観を犠牲にした尻無川・安治川の護岸構築、土地の交換・分与や建物移転の過程で生じた利害調整の不公平など）も検証して功罪を明らかにし、記念事業（特に歴史展示）に反映させるべきではないか。

内容 全体として港区の歴史的事業を後世に伝えるという主目的に合致した事業内容になっているか。世代間交流・子育て支援・防災拠点・地域医療拠点・災害時医療拠点・地域包括ケアシステム・文化ホール・区史展示・図書館・会議室など、計画案に示された機能の中に、無駄なもの、また不足なものはないか。区画整理の歴史を後世に伝えるための展示スペースは図書館に併設で良いか、独自に設けるのが良いか。病院と記念会館の面積や配置の割り振りは適切か。

費用 大阪みなと中央病院が買い取る敷地（二〇八五㎡）の代金（十億円）は適切か。事業費四十八億円に市の補助はないのか、建設費と運営費のバランスは適切か。運営の中で得られる

収益（使用料、入場料など）をどう扱すべきか。

運営 病院は大阪みなと中央病院が運営するとしても、記念会館を区役所が運営するのは適切か、他の方法（区民団体などによる運営、あるいは分割運営）は考えられないか。

交通 交流会館への重要なアクセスとなる弁天町駅前交差点のバリアフリー化（地下道へのエレベーター設置など）の完了時期（二〇一七～八年度）は適切か。図書館、区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザなどの機能が弁天町駅前へ移ることで築港など区西部の住民からますます遠ざかる問題をどう考えるか、分室設置などの対応が必要ではないか。

関連施設 大阪みなと中央病院が築港から転出することへの築港住民の医療不安をどう解消すべきか。今、充分に利用され喜ばれている三施設（区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザ）の廃止は区民のためになるか、市民財産の民間への売却とコスト削減が主目的ではないか、運営者や利用者は納得するか、施設は残すべきではないか。

あさやけ

「キリンさんは好きです。でもゾウさんはもう好きです」。引越会社のこんなCMが何年か前に流れたことがありましたが、意外とこんな文句に事の本質が隠されているのかもしれない▼戦後七十年とかで、あの戦争をどう見るかの議論が盛んですが、どれもスッキリ頷けるものがないのが気になるります。中でも安倍首相の「戦後七十年談話」なるものは、そもそも「戦争法案」推進中のこの人に平和を語る資格があるのか、なんて考えてしまいますが、それでも発表後は「反省の言葉が入って良かった」「でも主語がはつきりしないなど」と反響を呼びました。この誰に対しても曖昧な受け止められ方が狙いだっただのかもしれない▼折しも終戦記念日を前後して、日米関係を巡る事実が次々と明らかになっていきます。その一つが二十年前の日航ジャンボ機墜落事故での米国の対応。日本側の綿密な調査でボーイング社の修理ミスが明らかになったにも拘わらず、作業員

の聴取を拒み、逆に「見抜けなかった日航や運輸省が悪い」と責任を日本側へ転嫁したということです。遺族はさぞ悔しい思いをしたことでしょう▼もう一つ。一九六一年から十年間、米軍は七千八百万にも枯れ葉剤を東南アジアにまき散らし、今も数百万のベトナム人が被害に苦しんでいることは既に知られた事実ですが、その枯れ葉剤が沖縄の米軍基地に貯蔵されていたことが三年に現地作業員の手で明らかになったにも拘わらず、米国防総省は「沖縄に枯れ葉剤はなかった」と否定し続け、日本政府は調査もせずその立場を受け入れているのです▼一体この国の主権は誰にあるのか。そしてこの異常さを齎したのは何なのか。その答えの鍵は結局、あの世界戦争をどう見るかにあるといえるでしょう。なぜならあの戦争によって世界の力関係は大きく変わり、勝者は「正義」へ、敗者は「悪」へと色分けされ、その価値観の上に戦後世界が国連の装いのものに再構築されてきたからです。つまりこの大枠が崩れれば日米関係も成り立たなくなるのです▼ではその根源となったあの第一次大戦とは何だったのか。そのヒントが

冒頭のCM「ピー」にあるのです。つまり国内市場に限界を見た財閥の後押しで中国などを侵略した日本も、第一次大戦の巨額賠償に我慢できない独財界の後押しでポーランドなどへ侵攻したドイツも、確かに悪かった。これは否定できない事実です。でもそれらの「悪を根治する」という「大義」で国民を焚き付け、世界市場を我が物にしたい米財界の後押しで原爆まで使った米國とその連合国はもっと悪かった、という訳です▼この悪の構図、いわば同じ穴の貉どうしの争いであり、その犠牲になったのは各国庶民であり、一番得をしたのは一番戦争を欲していた米財界であったという大戦の本質。これを正しく踏まえてこそ、戦後談話も説得力を持ち、八千万もの大戦犠牲者への心からの「お詫び」となり、平和な世界へのこの上ない「決意」ともなるのではないのでしょうか▼ですから細かにいってはいけません、安倍さんはせめて、かの談話をどう結ぶべきでした。「日本は悪かったです。でもアメリカはもっと悪かったです」と（尤もその途端、首相のクビは飛んでいたでしょう）。——以上、港新聞の戦後七十年談話でした。

地域に平和の力を！

NPOなどと 大空襲を語る集い



「戦争体験を継承し、地域に反戦平和の力と開かれた」第十五回 大空襲の体験を語る集い
 〃八月一日、南市岡の田中機械ホール

「空襲体験を語り継ぎ、地域に反戦平和の力を築き上げよう」と八月一日（土）、南市岡の田中機械ホールで「大空襲の体験を語る集い」が開催されました。「平和と福祉」を掲げて活動する特定非営利活動法人NPOみなどの主催で十五回目。区内外から約五十人が参加しました。

◆ 体験継承の大切さを強調

集いではまず、司会の高橋健治さんが「戦争の放棄、軍備及び交戦権の否認」を謳った憲法第九条（第一項・第二項）を朗読。「平和憲法の大切さを心に刻もつ」と呼びかけました。

続いてNPOみなど代表理事の玉置雅彦さんが主催者あいさつに立ち、『生きて還つてきた男』（右波新書）の著者や内容を紹介しながら、「記憶は聞き手との相互作用で作られる。つまり過去の事実や経験はあとで聞く者の姿勢によって意義を持つようになる」と体験継承運動の大切さを強調。その上で「賢者は歴史に学び、愚者は感情のままに動く」との格言を引き、「まさに今のことだ」としめくりました。

このあと玉置さんの父や祖母の姿を含んだ戦中の写真や戦後の焼け跡、現在の安保法制国会や

「主催者あいさつをする玉置雅彦さん（NPOみなど代表理事）①と、憲法第九条を読み上げる司会の高橋健治さん②



反対運動の様子を写したビデオを上映。玉置さんは「戦中戦後生き抜いた人たちの姿をどう受け止め、未来につなげるかが、私たちに問われている」とコメントしました。

◆ 戦中の思想統制など語る

続いて不戦兵士・市民の会湘南支部の保坂治男さん（八四）が「空襲下の東京都立六中現・新宿高校」生だった私と重需工場に動員されてきた台湾少年工のこと」と題して講演。この中で保坂さんは「昭和八年、東京都新宿区に大工職人の三男として生まれ、同二十年四月の空襲で家を焼かれて横須賀市に移り、戦後、法政大を卒業、小学教員を定年まで務め、現在、大和市

登録の語り部として活動中」と略歴を紹介され、「最近の反戦平和運動が一九六〇年頃と様変わりつつあるのに驚きつつも、特にその自由な雰囲気や、若い力の台頭（たいとう）に期待している」「私は体験を語る時、（印象）けるために、必ず道真を使つが、今日もさつした」と前置きした上で、大要次のように語りました。

・「アコーデオンの『いのぼし』を弾いたあと 昭和六年に友だちの近藤はじめ君のお父さんが作詞したこの歌に『おもひのつらさにおよんでいる』の二節があるが、（満州事変で戦火が拡大していく中）『さうさう自由で楽しい世でなければ』この思いが込められたのだらう。

・「アコーデオンで『チューリップ』を弾いたあと」この歌は作者不詳となっているが、実は友だちの近藤はじめ君のお母さんと、宮子（みやこ）さんが作詞した。『なつんだ なつんだ あかしらきいろのぼしはなみてもきれいだな』とあるが、（戦火拡大の中）『さうさう自由で個性豊かな世界でなければ』この願いが込められていたのだらう。

・友だちの中村君の弟が産まれた時、医者から『まだら（まだら）のふし（ふし）に』と処置（しょし）しますか？』と問わ

れた。人差し指と中指がくっついていたので銃の引き金が引けないというのが理由だった。お父さんがお母さんに『どくする。』と相談する。と、お母さんは「処置するとは何事ですか？」と強く抗議し、病院内は騒然となった。

・昭和十六年十一月八日、友だちの近藤はじめ君の家へ特高警察が「大事な時だからちよつと」とやって来て、お父さんは中野署に留置された。十八日に釈放されたが、その間、はじめ君は警察へふとんを持って行ったりしていた。

・昭和十七年十一月十七日、小学一年生からの女友だち、高橋あやのちゃんの家族が『譽（ほ）れの家』として雑誌『遺族読本』の写真のモデルになった。『夫が戦死しましたがこれからも夫を迎えず、子供たちをしっかりと育てます』という母親のコメントが添えられていた。

・小学校の朝礼で、友だちの宮本ときお君が校長先生の横に立たされた。『お父さんが名譽の戦死をされたのに、涙ひとつ流さない。立派』とほめられ、拍手が起った。私は「えらいなあ。俺だったら泣いている」と思った。が、あとで本人に訊（き）くと「俺だつて泣きたかった。変な

気持ちだった」と言っていた。

・昭和十九年八月十八日付で書かれた海軍一等飛行兵曹・福田（ふくだ）絶（つせ）さん（当時十六歳）の遺書には「身を君国（くんこく）のため捨（す）つるは我が最も光栄（こうえい）とするところであつたが、そのお父さん曰（い）へ。『この子が死んだら我が家は断絶（だんてつ）だ。だから『絶』と名付けた。このくらい覚悟（かくご）がなかったらアメリカには勝てない』。

・昭和二十年三月十日の陸軍記念日に多摩川で中学対抗の銃剣大会や渡河（とが）訓練があつた。（前日深夜から同日未明まで東京下町に大空襲があつた直後でもあり）警報（けいほう）が鳴り響いたが、これくらいでやめないうえ、と訓練（くんれん）を続けた。が、下町の空は赤く染まっていた。

・昭和二十年四月十二日夜の空襲で母校（都立六中）が燃えた。習朝、明治神宮でおむすびをもらつた時、恐怖感（こふく）と情けなさで食べられず、口に押し込まれた。戦争（せんそう）ではものすごいアデオ（アデオ）ンギ教育（きよういく）であり、思想統制（しきうていせい）だつたと思う。

・ゼロ戦（ぜろせん）がB29には歯が立たなくなり、高空でも戦える戦闘機（せんとうき）「雷電（らいでん）」を造（つく）つた頃、台湾の少年たちが動員（どうえい）された。「高等教育（こうとうきよういく）が受け

られる」と喜んでやって来たが、実際には飛行機を造らされた。その工場となった川崎市の三菱重工のそばに満開の柿の木があったが、空襲のあとも満開だった。が、それは少年工たちの肉がぶら下がっていたのだった。

——以上の事実を語ったあと保坂さんは「今を生きて皆さんは国の思想統制に惑わされず、良心に従って行動してほしい」と結びました。

◆ 自らの空襲体験を語る

このあと大阪戦災傷害者・遺族の会会長の伊賀孝子さん（八二歳）が「私の空襲体験」と題して講演。この中で伊賀さんは「国と雇用関係になった一般人への補償は考えていないという政府に『戦災傷害者援護法』の制定を求めて運動してきたが、自らの体験をもっと語るべきとの声を受け、今日は覚えていた限りのことを話したい」と前置きし、大要次のように語りました。

・昭和二十年三月十二日の深夜、近所の人の声で空襲を知り、弟と防空壕へ駆け込んだ。母と父も入っていた。父が「外の様子を見てくる」と出たので、私もついて出た。西の空が真っ赤だった。もう一度壕に入った。

←講演する保坂治男さん（不戦兵士・市民の会 湘南支部）①と伊賀孝子さん（大阪戦災傷害者・遺族の会会長）②



・父がもう一度出たところで直撃を受けた。油脂焼夷弾だった。「父が死んだ」と思った。

私も左脚が熱かった。近くの防火用水に飛び込んだ。近所のおばさんが、股に火が付いて「熱い！熱い！」と叫んでいた近所の男の子を防火用水に浸けてやった。私が我が家に向かっていると「おあちゃん！」と叫んだら背中を叩かれた。

・そのあと、もう一度防空壕へ戻ろうとしたが、その時にはその男の子は死んでいた（のちに、その子の母親も五月になくなったと聞いた）。

・防空壕に戻ると、弟の体はふくれ上がり、焦げる寸前のような姿をしていた。母の姿がなかった。父は探しに出たが、分らず、戻ってきた。

・父は弟を抱きかかえ、私と三人で学校へ走った。西の空は真っ赤だったが、ほかの空は暗かった。父は「救護室はどこですか！」と叫びながら教室へ入って行った。弟をうつ伏せに寝かせた時、「見たらあかん！」と強く言われた。弟は左手の肉が取れてしまっていた（このあと亡くなるまで、弟は軍手をはめたままだった。私はそのとき防空頭巾をはずしていた。父は顔と両手にやけどしていた。私も父も応急処置をしてもらなかった）。

・翌日の朝三時ごろ、三人とも学校から出て、やがておじの家に落ち着いた。弟と二人、部屋に寝かされた。ひと問おいて父が寝た。近くの薬局の人に「包帯を貼りかえなさい」と言われ、おばが貼りかえてくれた。

・私は何日か目が見えなかった。弟は「お水、お水」という言葉と、（父の影響が）五力条の軍人勅諭（ちくよ）をしきりに繰り返ししていた。私は人を呼ぼうとしたが、声が出なかった。弟が「おじちゃん」と呼んでくれた。おばが「何？」とやって来て、水を飲ませようと声をかけた時、弟は死んでいた。三月十八日だった。

・そのあと、親戚が焼け跡に母の遺体を見つけてくれた。知らせを受けて駆け付けた。防空壕のあたりだった。首から上が地面に刺さり、体が地上に出ていた。胸に直撃を受けたのだろうか、その衝撃で突っ込んだような姿だった。リュックサックや何かの蓋、上着、肌着、お守りなどがあたりに散らばっていた。母であることを私が確認させられた。

・母と弟の遺体を一緒に火葬した。白いお骨と黒いお骨を、赤い紙を貼った菓子箱に入れてお墓に収めた。(あとになって思ったことだが)どこでなくなったのかも分からない人が多い中、遺体を確認でき、火葬もでき、まだ幸せだった。

・子供の頃から「日本は勝つ」と叩き込まれ、「負けるとはありえない、軽い気持ちでいた。」

・貨物列車が着く所で近所のおばさんが、出征する兵士のお茶の接待をしていたが、ある朝、そこで捕虜の米兵が、なぜか日の丸を揚げながら作業しているのを見て、「かわいそうやわ」と思いながら学校へ行ったことがある。

・そのあと空襲に遭ったことで、初めてのちのの国にも、また勝っても負けても、嘆き悲

しむ人がいることが分かった。言葉や肌の色が違っても同じ人間。戦争してはいけない、仲良くしていかねばいけないと心から思う。

・戦後七十年。今、嫌な雰囲気を感じている。上に立つ人たちを見ていると、あの頃と雰囲気が似ている。どうすればよいか。若い頃の力はないし、体調もすべれないが、動ける間はこうして招かれるままに体験を語り続けたい。八月一杯は色々な集まりに呼ばれている。私たちの手でどうしても戦争を止めていきたい。

◆「語りの姿を引きつけて」司会者

一人の講演を受けて司会の高橋さんは「ここどうして語っていただいた講演者が、これまでに既に三人くなっている。お二人がどんなことをどんな表情で語られたか、目と心について焼き付けてほしい」と訴えました。またNPOみなこの沢田尚(なつ)理事は、書籍などの展示資料を紹介しながら「これらは決して面白いものではないが、過去に目を閉ざしてはならないとの言葉もある。ぜひ目を通してほしい」と呼びかけました。

このあと戦争法案反対に力を合わせる学生組

織「シールズ」の女性が国会前集会で「数の力で戦争法案を通そうとする安倍内閣は許せない!」「この悲しみと怒りをエネルギーに変えよう!」と叫ぶ様子を写したビデオが上映される中、集いは終了しました。

◆「戦後生まれにも責任」と参加女性

参加者の一人、岸本淳子(しん)さん(五九)平野区在住、介護職は「毎年参加しています。色々な道具を使って語られた保坂さんの講演からは体験を伝える方法は色々あって良いと思いました。伊賀さんはこれまで辛くて語れなかった大空襲の体験を詳しく語って下さり、感銘を受けました。玉置さんの父親や祖母が写ったビデオからは、語り継ぐことの大切さをいっそう感じました。私の父は大卒で、通信兵として広島で従軍し、叔父(おじ)の弟は特攻の生き残りとして戦後は体験の記録活動をしていましたが、戦争や生き方に対する考え方の違いから、二人は死ぬまで対立していました。これも戦争の悲劇かもしれない。こうした体験をどう受け継ぎ、生かしていくか、私たち戦後生まれの責任も問われていると思います」と語っていました。

党派超え戦争法案反対

港の労働者が雨つき集会



→ 本降りの雨を突いて大阪港の労働者が「戦争法案反対」を叫んだ大港労協主催の集会。八月二十五日夜、八幡屋公園多目的広場

「戦争法案絶対反対!」「憲法九条を守れ!」

。八月二十五日夜に八幡屋公園多目的広場(田中三丁目)で開かれた集会には大阪港の労働者ら三百人が結集、国会で審議中の「安保法案」への反対を、党派を超えて訴えました。大阪港湾労働組合協議会(大港労協)が主催。

集会は「戦争法案反対 大阪港総行動」と題し、本降りの雨を突いて午後八時半、同広場の阪神高速高架下で開会。全港湾、大港労組、全口通、全倉庫、検数労連、検定地連、阪神海員、港台同などの組合員や区民団体メンバーが、ゼッケンを胸に、幟やプラカードを掲げる中、安保法案に反対する労働組合や政党の代表が次々とあいさつに立ちました。

◆「最後は労働者の力で」と労組代表

この中で主催の大港労協・小島敏弘議長は「労働者だけでなく、各地で各層が連日行動を起こしている。安保法案は時の政権が憲法を勝手に解釈して集団的自衛権の行使へ突き進むもの。国会を解散して総選挙で国民の信を問うべきにもかかわらず、既に米国に約束している。分かっていく内容だが、我々に悪いことは明ら

か。その中で政治に無関心といわれる若者が反対の先頭に立った意義は大きい。港の仲間も全国の仲間と共に枠を超えて運動を発展させていこう」と呼びかけました。

大港労協の上部団体である全国港湾労働組合連合会・松本耕三副委員長は「大阪の仲間から連帯を送る。安保法案は日本を戦争へ巻き込む法案だ。それをめっちゃくちな国会運営で通そうとしている。今、日本は燃えている。特に国会周辺では若者たちが声を上げている。最後は我々労働者の力だ。安倍退陣まで運動を強めよう」と訴えました。

◆「日本の平和を守り抜こう」と民主党代表

民主党・森山浩行元衆議院議員は「鳩山政権以来、今が一番国民から励まされている。議員時代に安全保障委員をしていたが、アメリカと一緒に他国を攻撃したら反撃されるのは当たり前。自衛隊員にリスクがないなどという言えるか。正攻法も大事だが、自公支持者や軍事オタク的な人たちへも反対の輪を広げ、あらゆる力を結集して法案をひっくり返し、日本の平和を守り抜こう」と呼びかけました。

◆「七〇八割の反対で阻止」兵産党代表

日本共産党：竹内よしのり港区市政対策委員
長は「戦争のための法案であることが審議する
ほどに明らかになっている。参議院では我が党
の小池議員が、法案成立を前提とした自衛隊の
内部文書が五月に出されていたことを暴露して
大問題となっているが、この中で自衛隊は『軍』
とされている。いつから自衛隊が軍隊になった
のか。これが軍部の暴走と言わずして何とい
うか。法案は日本に攻撃がないのにアメリカに付
いて攻撃し、国民を安全どころか危険にさらす
もの。何より九条に真つ向から違反する。それ
を数の力で突破しようとしている。この独裁を
みんなの力で止めよう。五〇六割の反対が七
〇八割に届けば阻止できる」と訴えました。

◆「再議決許さず廃案へ」と社民党代表

社民党・服部良二元衆議院議員は「沖縄の米
軍へリ墜落事故で自衛隊の特殊部隊が米軍の特
殊訓練に参加していたことが明らかになった。
法案成立前から既に日米軍事協力が進んでいる。
丹後半島へのXバンドレーダー設置で日米が情
報を共有するようになったというが、この法案

←雨の中、次々と「戦争法案反対」を訴える各

政党(労働組の代表)と、拳を突き上げ力強くシ
ュプレヒコールを繰り返す労働者(下)



では日米が共同で行動するようになる。自衛隊
員だけでなく我々も危険にさらされるのは明ら
か。憲法九条は無きに等しくなる。毎日何万人
もが反対に動いており、公明支持者や創価学会
も揺れている。この雰囲気をついに強め、再議
決を許さず、廃案へ持ち込もう」と訴えました。

最後に全員で拳を突き上げながら、「戦争法
案さすべ廃案!」「戦争する国 絶対反対!」「憲
法九条守れ!」「安部政権の暴走止めよう!」
「安部政権はさすべ退陣!」などのシュプレヒ
コールを連呼しました。

◆「強引な姿勢に不信感」参加青年

検数労連から参加したという三十歳男性(門
真市在住)は「安保法案関係の集会に参加するの
は初めてです。国会前で訴えたい気持ちでは
が、こうして地域地域で反対運動を積み重ねる
のも大事だと思い、参加しました。自国を守る
といいながら、結局は中国などの脅威を口実に
アメリカと一緒にどこへでも出かけ、戦えば死
者が出るのは分かり切っています。分かりやす
い説明のないまま、数の力で強引に成立させよ
うという安倍政権の姿勢に不信感を持っていま
す。今日は地域の行動に参加できてよかったで
す」と話していました。

1人で悩まないで!

職場に組合のない人、アルバイト、パート、
臨時・契約労働者……。ユニオンおおさかは
ひとりでも、誰でも入れる労働組合です。働
く人々が地域で助け合う新しい組合です。
毎月の会費は、収入に応
じて1000~3000円。
経験豊かなスタッフが親
身になって解決へ努力し
ます。まずお電話下さい。
無料。秘密守ります。



ユニオンおおさか

☎6575-3133
築港1-12-27
労働会館内

払えば食えぬ！

区民団体 国保料引き下げ求める



→ 高過ぎる保険料に「食えば払えず、払えば食えない」という切実な実情がぶつけられた「国保交渉」 〓八月七日、港区役所五階で

食えば払えず、払えば食えず。八月七日に港区役所で行なわれた毎夏恒例「国保交渉」には区民一千数人が参加。深まる貧困化の中で支払い限度を超える保険料に苦しむ庶民の実情を訴えると共に、①保険料の引き下げ②保険料や医療費の減免制度の拡充③困窮世帯への処分の中止などを求めました。主催は区内の諸団体から成る「港区国保対策連絡会」。港区役所窓口にサービス課保険年金担当が対応。

同会が事前に提出していた「要望」①国保の都道府県化をやめるよう国や府に働きかけてほしい②国保への国の負担を増やすよう求めてほしい③滞納世帯などへの強権的な差し押さえはやめてほしい―など五項目に区役所が「回答」を示したあと、参加者と区役所の間で主に次のようなやり取りがありました（矢印の後は区役所の答弁）。

◆ 港区の国保の現状

- ・ 港区内の国保加入世帯と人数は？→二万四千四百五十五世帯・二万三千九百五十人（今年七月末）。
- ・ そのうち滞納などに対して有効期限などが制限される「短期証」「資格証」が交付された世帯は？→二万四千四百五十五世帯（今年七月末）。

帯は？→「短期証」は二万四千四百五十五世帯（今年一月更新）、「資格証」は三万五千二百世帯（昨年九月更新）と四八八世帯（今年五月更新）合わせて四九九世帯。

- ・ そのうち高校生以下の子供への「短期証」送付件数は？→一九四件（今年四月発送）。
- ・ 滞納などに対して「財産調査」された件数は？→四八五八件（今年二月末）。

・ そのうち「差し押さえ」された件数と「自主納付」された件数は？→「差し押さえ」一〇四件、「自主納付」二〇七件（今年二月末）。

◆ 大阪市の国保料は高いか

・ （大阪市の）国保料は「高い」と認識されているが→「安い」とは思っていない。

・ 大阪市の国保会計は五年連続赤字なのに、一年連続で国保料を値上げした。市の一般会計から国保会計への繰入金金をなせもつと使わないのか→繰入金金はまず赤字を補填する^{ほてん}ためにあるといつことなので、「理解」を。

◆ 高い保険料で生活できない

・ 年金生活になつて年一四八万円。生活保護並みの収入だ。そこから国保料をとられたら生きていけない。（減免制度で最大の）七割減免で

も無理。こんな現状を認識し、(生活保護など)整合性のある制度にしてほしい。

・夫が今年三月に失業し、四月から年金暮らし。毎月十八万五千円の年金から国保料を一万六千七百円超(年間二十一万円超)払っている。これではやっていけない→国保料は前年の所得に基づいて算出されるので、そうになっているが、退職・倒産・廃業・休業・営業不振など今年に入ってから的大幅な所得減少を証明できる書類を添えて減免申請してもらえば、減免が可能になる。

◆減免などの手続きの改善を

・国保料の「決定通知」が届くのは毎年八月二十日ごろ。それを見てすぐ六月分から国保料の減免を受けようとするわけ、その納付期限である八月二十日の七日前(つまり六月二十三日)までのわずか三日の間に減免申請しなければならぬ。あまりに急で、期限までに申請できなかった事情が確認できれば対応できる。決定通知をもっと早く届けることも検討している。

・病気で所得が減少して国保料の減免を申請する際、「診断書などが必要」とあるが、レシ

ートでもOKなようにしてほしい→(病気などが証明できる書類であればOK。「診断書」というのは例えではない)。

◆国保の「都道府県化」について

・国保が「都道府県化」される平成三十年度に保険料や大阪市独自の保険料「三割減免」がどうなるのか不安だ→我々もまだ把握できていない。もし変更があれば早く教えてほしいという皆さんの声を市や国へ伝えていきたい。

・国保の「都道府県化」についての文書回答の中で、都道府県化は「国保制度の安定化を図る」ためとあるが、どういう意味か→大きな範囲で運営していく方が財政的に安定するということだろうが、詳細は把握していない。

◆生活貧困化と国保

・知人の三十代女性は**めまい**がひどくて働けないが、国保料は払うしかないと思い、無理して払っている。日本がだんだんアメリカの実態(貧乏人は医者にもかかれないうに近づ)中、こ

んな人のためにも国民皆保険は守らねばならない。
・国保料が払えず、医者にいかねず、無理して働き、病気になる、働けなくなり、ますます

払えなくなる。こんな悪循環を断たなければならぬ→(減免制度などを活用してもなお厳しい人には、生活保護の窓口を案内するなど、部署間で連携し、調整を図っている。

・老後のために蓄えたお金まで(滞納を理由に)差し押さえるのは行政のやることではない。払いたくても払えない人の多い現状を見極め、心配のいらぬ安定した保険にしてほしい。憲法二十五条に則った行政を望む。

◆良い制度は生かそう

・一部負担金(医療費の窓口負担)減免制度は良い制度だ。にもかかわらず利用が少ない。なぜ少ないのか。もっと使えるようにできないのか→(療養の見込み期間が「三カ月以内」などの制約があるからかもしれないが、もっと申請されるよう、市にも積極的な周知を働きかけたい。

・(自己負担限度額を超えた場合の)高額療養費支給は良い制度だが「領収書を持って来ない」などの条件があり、確定申告などその領収書が必要な場合、「レシートでよい」という改善できないか。税務署との間で調整できないか→

医療費が減額された後の所得に課税されるといふ流れなので、理解願いたい。市には改善を提案していきたい。

・「特定健診」は良い制度だが受診は増えているのか→今年三月時点で二七二八九人に案内を発送して二六四人が受診した。受診率は二二・八％。港区は大阪市で下から一番目くらい。

・なぜ低いのか。どんな地域が低いのか→西成や浪速などが低いが、港区はそこにも抜かれそつだ。案内を強めたいので、皆さんからも周知方法を提案するなど協力をお願いしたい。

◆区役所も共に闘おう

・憲法二十五条にもとづく生活保護が、贅沢だとのバッシングを受けているが、生活保護にも満たない年金の在り方が問題。そんな中でも命に関わる医療だけは無条件に受けられるのが当然だが、それもできなくなるのはさらに大問題だ。こんな状況を解決するため、区役所も一緒に闘ってほしい→生命を守るための国保制度を維持する这一点では皆さんとは一致している。いついたかを市や国に伝えながら動いていきたい。

・高い保険料を払い続けた挙げ句に介護や医療が受けられなくなるというのは逆立ち行政。老後が楽しみとなるような暮らしやすく、人口が増えるような行政へ、共に動いてほしい。

・例えば領収書の添付には「ピーでもOK」など港区独自の判断で良い先例をつくり、全体へ広げてほしい。

・那覇市では国の「無料定額診療」に加えて独自に薬代の助成もしている。大阪市もぜひそうなるよう港区役所からも声を上げてほしい。

◆区は基本姿勢を強調

以上のようなやり取りや、冒頭の文書回答などを通じ、区役所は、市の窓口としての基本姿勢を次のように強調し、理解を求めました。

①国保は財政基盤が脆弱という構造的な制約がある中、市は一般会計から巨額を繰り入れたり、独自の負担軽減制度を導入したり、国に改善を求めたりして、国民皆保険制度の維持と被保険者負担の軽減に努めている。

②保険料を滞納している世帯、保険料や医療費窓口負担の減免を望む世帯、短期証や資格証を交付せざるを得ない世帯などに対しては、制

度の枠内で職員の力の及ぶ限り、実情を把握した上で、それに見合った対応に努めている。

③今日受けた要望や実情は福祉局に伝える。

◆庶民の不安と地方公務員の苦悩

日本の健康保険制度のうち、最多の三千五百万人が加入する「市町村国保」は、無職・非正規・自営など低所得者の「最後の命綱」となっています。しかし国保会計への国の支出は減らされ続け、重い保険料となって国民を苦しめてきました。そのため国はようやく今年度から毎年千七百億円の財政支援を講じました。その中で大阪市の国保会計は五年連続黒字。にもかかわらず一昨年、昨年と保険料を連続値上げ。所得一百万円で保険料二十八万円(四十代夫婦と子供二人の四人世帯)と目をむく高さ。滞納は加入世帯の二五％、十一万世帯に上っています。

今回の交渉はいつた中で行なわれましたが、生活と健康への庶民の不安、それを目にしたながら米田財界への奉仕に汲々として急がず、術もない国政、そしてその間に立つ第一線地方公務員の苦悩が改めて浮き彫りになりました。

叫びたい！

ここにまことし

小西 正敏さん（六四歳、田中）



おむつ代すら補助 されない福祉とは

私の母は九月で九十四歳になります。六月に要介護2と判定され、週一回ファイナンスを利用していました。七月下旬に高熱で体調を崩して下病院に救急搬送され、今も入院中です。

入院費は一カ月の医療限度額四万四千四百円、

食事代は一回 百六十円。しかし思わぬ出費に驚きました。それは寝たきりでトイレに行けなくなったためのおむつ代です。初めは後期高齢者医療保険が適用されると思っていたのですが、全て自費。七月だけで一万二千円、転院したY病院では「産業廃棄物削減のため」とかで指定の紙おむつしか認められず、月一万四千円にも。

そこで区役所に問い合わせると、介護保険におむつの現物支給制度があるが、在宅で、要介護4以上（全介助）で、しかも住民税非課税の世帯が対象とのこと。これに照らすと、まず在宅ではないので適用外。次に介護度でも要介護2のため適用外。さらに、母は所得がないため非課税ですが、息子の私が低いながらも一定の所得（年間約百五十万円）があり、世帯としては住民税が課税されるので、この点でも適用外。

このうち介護度では、入院で寝たきりに近くなったので、再調査を依頼中ですが、仮に要介護4と認められても、他の条件から外れているため、やはり現物支給は受けられません。

◆ 社協にも求めたが…

そこで最後の砦として絶ったのが港区の社

会福祉協議会（区社協）でした。が、ここでも「社協の基本的なスタンスは在宅介護に伴うサービスであり、「おむつ代補助の制度はない」との説明。ここに至って私は深く考え込んでしまいました。「一体、何のための医療保険、何のための介護保険、何のための福祉か！」と。

国は今、医療費が年々増大するので施設介護から在宅介護へ転換を図っています。しかし今の母のように、在宅介護を受けたくても受けられなくなった高齢者がどんどん増えているのが現実です。にもかかわらず長期の病院暮らしにおむつ代すら補助してもらえないとは…。

諦め切れない私は区社協に対し「在宅入院を問わず高齢者介護の家族には、おむつ代補助が貸付の制度を」と要望しました。この国や市の福祉の隙間で苦しむ者に対しては、地域福祉のセンターともいっべき社協がカバーするのが当然と見え、また、その原資の一部は私たち市民の善意募金で賄われているからです。本来なら国に求めるべきところ、とりあえず身近な地域の福祉団体に思いをぶつけてみましたが、読者の「意見も聴えたく思っています」。

あれこれガイド

● 交流秋まつり 十月四日(日) 十時十五時頃

田中機械(南市岡二・六・一六)構内で、労働運動の高揚をめざし、労働者と地域住民が集う恒例イベント。三十七回目。歌や踊り、争議支援のバザーや格安の味自慢屋台、豪華景品が当たるビンゴゲームや飛び入りできるカラオケ大会など。入場無料。雨天決行。主催は全国金属機械労働組合港合同と港合同もちつき実行委員会。共催は特定非営利活動法人NPOみなと。 〇八五八三・四八五八港合同。



「昨年の『交流秋まつり』から。上は勤労者バンドの演奏、下は将棋コーナーの対局風景

● ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕田一・六・三、〇六五七一・七五二一)。

● 繁栄ワイワイ市場 商店街に個性的な露店がズラリ。各地で活動する様々な分野の業者が一堂に会することで業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす。ネイルアート、唐揚げ、窯焼きピッツァ、沖縄物産、手作り小物、バルーンアート体験、保険案内、似顔絵、タロット占い等々。十月は抽選券プレゼントあり。毎月第一土曜の十時十六時 繁栄商店街(南市岡二丁目)で。 〇八五八三・〇三三六繁栄商店街。

● 繁栄韋駄天尊 夜店まつり 商店街と地域の活性化を願い、地域の守り尊である「韋駄天尊」を囲んで行なわれる毎夏の伝統行事の後篇(前

「過去のワイワイ市場」と前回の夜店まつり」



篇は八月十三日。かき氷、たこせんなど懐かしさと目新しさを組み合わせた食べ物店(二つ百円)や「ジャンボガラガラ」ニセ金魚すくいなど遊び心と工夫を凝らした遊び店(一回百円)が並び、昼間は繁栄ワイワイ市場(前述)あり。十月三日(土)午後八時〜八時に同商店街アーケード下で、繁栄商店街と地域の人々が共催。同商店街は南市岡二丁目。 〇八五八三・〇三三六とん館ひらのや。

● 〆子打ち(首・腰) 無料相談会 交通事故で〆子打ちになった被害者を対象とした無料相談会。九月二十七日(日) 十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。

「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバ
イスします」「事故後、早めの相談が良い結果に
つながります」(同事務所・野村光恵さん。E
メール:info@jikkoo110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七八、F
AX 六五七六・六〇七九。

●市岡下水処理場「一般公開」

十月二日(土) 十時～十八時(小雨決行)。汚れた水がよみがえる
仕組みを学べる「施設見学」(最終回は十五時半
から約三十分)をメインに、(1)微生物の顕微鏡
観察(2)下水道の歴史を学べるDVD上映(3)下水
道資源の有効利用(4)ゲーム(5)わんわんわふれあ
い広場(6)消防車にのれる(時間限定)などの



→ 昨年の市岡下水処理場「一般公開」から。上
は反応槽、下は第二ポンプ棟の見学風景

コーナー。環境に優しい肥料や透水性煉瓦^{れんが}、古
布マタニティ服やベビー服のプレゼント(数量
限定)も。家族で楽しめる工夫が一杯▽市岡一
一五・一五。 ☎六五七六・三三六三。

●社会保障交渉

医療・介護・福祉など、特に高
齢者に関わる問題で、大阪市の窓口である港区
役所に課題を提示し、解決を求める交渉。社会
保障を市民の立場で検証し、行動する人たちの
集まり「大阪社会保障推進協議会」が呼びかけ
る毎年恒例の自治体キャラバンの一環。十月七
日(水)十時～十一時に港区役所五階会議室で。参
加自由。港区での連絡・問い合わせ先は「港区民
会議」(夕凧二一〇・一六港民主商工会内、
☎六五七二・七八六七)。

●健康まつり

十月二十五日(日)十時～十五時
ごろ磯路中央公園で。区民の健康づくりを目的
に毎年開催され、十九回目。今年は「つなげよう
健康と平和の」がテーマ。健康チェック
(血圧・体脂肪測定など)や舞台発表(体操・踊り・
演奏・歌など)、バザーや屋台、子供コーナーも。
参加協力券(二百円)で大抽選会(午後一時まで
に抽選箱へ)。主催は大阪きつがわ医療福祉生活

← 昨年の「社会保障交渉」での話し合い風景(上)、
昨年の「健康まつり」から舞台発表(下)



協同組合。問い合わせは港・西エリア健康まつり
実行委員会(磯路二・三・四、☎六五七二・一〇六
〇六)へ。

●障害年金もれの心当たりある人は相談を

障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害
年金を受けられるのに請求手続きをしていない
人が相当数(身体障害者では〇・四割、二万人
程度)にのぼることが厚生労働省の調査で判っ
た(二〇二三年七月)。原因の大半は、「障害者
手帳に記載されている等級」と「障害年金の受
給要件となる等級」にずれがあること。このた
め、例えば、実際には三級の障害厚生年金を受
けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、

身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分では受けられない」と思い込んでいた場合などは、申請しなければ、いつまでたつても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所（磯路三・一五・一七、☎六五七二・五〇三二）まで。

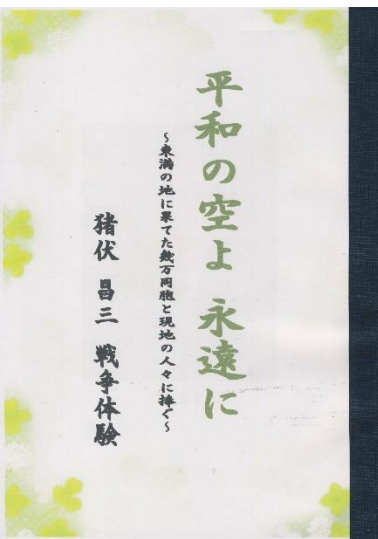
●中学生・海の作文コンクール 海への関心と知識を深めるため毎年実施。テーマは海・船・港・川・湖など広く海に関わる自然や仕事や体験などについて感じたり考えたりしたと。四百字詰め原稿用紙五枚以内（題名・学校名・学年・ふりがな付き氏名を明記）。一人一点。九月三十日（水）必着。入選（金賞・銀賞・銅賞・佳作）の計四十



→「中学生・海の作文コンクール」のイメージ

名）発表は十一月下旬。申し込み問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会（〒552-0021 大阪市港区築港二・七・一五 港振興ビル204号室、☎八五七三・六三八七、HPは<http://kinkikikai.jp/>、sakra.ne.jp）へ。

●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州！
延吉で終戦を迎えた十六歳の少年が日本に帰り着くまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った感動の書。戦後七十年に鑑み、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと、本紙一〇三年五月〜一〇四年一月に連載の「平和のため戦争体験語り継ぐ」に加筆し、資料を添



→戦争体験記『平和の空よ 永遠に』

←著者・猪伏昌三さんの少年時代（上）と近影（下）



えて入魂の冊子化。希望者には三百円（送料・税込）で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん（〒531-0074 大阪市北区本庄東一・四・一・二一三、TEL・FAX〇六・七五〇八・一一二七、Eメールmk5@w2.dion.ne.jp）へ。著者はもと港区田中の住民。

●緑の地球ネットワーク（GEN） 中国山西省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万二千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥税制上の優遇措置あり⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組三百円⑨ビデオ『よみがえる森』を購入する⑩三十分五千円⑪換金できる物を送る⑫古切手・書き損じ葉書・

外国コイン・商品券など⑦ボランティアになる

⑧黄十高原スタディツアーに参加する⑨黄十高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験⑩その⑨案内⑨DVD『黄色い大地に広がる緑々草の根環境協力の二十年』を観る⑪緑化協力二十年を記念して制作。約二十分。無料⑩各種関連行事に参加する⑪十月十七日(土)GEN自然と親しむ会・秋のキノコ観察会⑫いずれも詳細・申込などはGEN事務所(市岡一・四・一四・五階 ☎六五七六・六一八一、FAX六五七六・六一八一)へメール gen@tree.s4.dion.ne.jp ホームページ <http://homepages3.nifty.com/gen/tree/>へ。



①GEN②とクリニックラウン③の活動イメージ

nifty.com/gen/tree/へ。

● 日本クリニック協会

入院生活を送る

子供らを定期訪問し、遊びとコーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニックラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。〇五年から港区を拠点に活動(八月から北区に事務所)▽新規クリニックラウン募集②二六年度研修生を募集。また応募書類提出と十月三日(土)選考会ガイダンス参加を▽支援の方法②寄付する③会員(活動会員・賛助会員)になる④マンスリー(ひと月単位)のサポーターになる⑤関連イベントに参加する⑥他⑦いずれも詳細や申込は事務局北区末広町三・一 天しもビル3B、☎四七九一・八七二六、FAX四七九一・八七四六 Eメール info@clinic-ions.jp ホームページ <http://www.clinic-ions.jp/>へ。

てんや ちやうやい ちやうやい

● 石綿(アスベスト)パンフ 肺がん、中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死に「アスベスト(石綿)によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができる。このパンフレットは、そんな

←港区役所三階でもらえる石綿・アスベスト

その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に **肺がん**や**中皮腫** などで亡くなられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しい などの症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当りのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構 (ERCA)

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

人だちや家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合にどこへ問い合わせたらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構 (ERCA) がまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿 (アスベスト) が原因かもしれません』。「コンパクトで分かりやすい」「区内六十代男性」と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所 (市岡一・二五・一五) 三階の港区保健福祉センターのチーフスタンドに設置してあるものを無料でもらえます。

みなとサロ

欠けているもの

池島・勝部 泰臣 八十歳

▼審議中の安保法案。「我が国が攻撃された場合のみ自衛権を行使」がいつの間にか「敵から攻撃を受けてる国から要請があれば」にエスカレート。湾岸戦争の折、故後藤田氏が「歯止めが利かなくなるから」と反対したが、正にこの政権の暴走はごまかすことを知らない。多くの若者、学者、弁護士、有識者がデモによる反対行為を行なっても、何のその、無視。政権与党の中でも反対意見があるはずなのに、ダンマリを決め込む。自民総裁選にも対立候補は出さずじまい。みんな小粒、サムライがいない。与党諸君は自分たちのやっていることがどういふことが今一度考えよ。(明治・大正の時代だったら暗殺されても不思議でないようなことを今の政治家はしているナ＝自民OBのG氏。

▼鬼畜の如きおじつらしい事件。高槻中一の

二人が殺された。何日も何日も事件のあらましを伝えるメディア。もつ結構だ。深夜に街をうつろつ子供たち。何故その家庭、保護者に目を向けようしないのだ！一歩譲って、スマホ持っているなら「ドコモイル」「フジイル」「くらいの会話も出来ないのか。ボランティアで自治会が夜回り見守り隊。市が防犯カメラを増やす。その前にすることがあるうが。——子供は暮れたら家に帰るもの——断絶の時代と言われる今と違って、昔は町全体がそいつ決まりだった。

▼スマホも持たぬジジイがボヤいてばかり。右を見ても左を見ても、今の日本には叱る人がいなくなった。欠けているのはソレ。

八月十七日記

市民の財産売りの飛びに憤り

(市国元町・七十年代 元公務員)

「市民の財産なぜ売り飛ばす? 『海遊館』民営化に疑問・不満・憤り」と題した八月号のトップ記事を読んで。かつて公務に就いていた者として、まさに我が意を得たりノの見出しで

した。また、いついつ「何でも民へ」といつ流れが、大阪だけでなく日本じゅうで見られることに、一般市民はもつと危機感を持つてほしいと思っていましたので、「海遊館」といつ、港区民にとって非常に身近で分かりやすい直近の事例を捉え、間髪入れず論評されたことに、思わず喝采を送った次第です。

いったい何を目的に、公的な施設を次々と民間へ売り渡すのか。貴紙が言われるように、行政を「住民利益のための住民との共同事業」と捉え、長年懸命に働いてきた者として、そこまでは考えたくありませんでしたが、やはり貴紙がズバリ指摘されているように、行政を「企業奉仕の道具」とする捉え方に根本原因があるように思いました。その本家本元が、すでに刑務所や町の行政そのものまで民営化しているアメリカだといつのも、うなずけるところです。

恐らく橋下市長らは、市民の税金でつくられて育てられた海遊館をはじめ、地下鉄・病院・学校・保育園・幼稚園・火葬場・下水処理場など種々の公的施設を、普段から市民のふいふから利益を吸い上げている財界へ、さらに滋養た

つぶりの食べ物として提供する、その仲介役を巧みに果たしてきた、またこれからも果たそうとしている中で、内外の財界から後押しされてきたのではないだろうか。

そのあたりの政党や議員の在り方が、この記事でいっそうはつきり理解できたように思います。そして、そんな市政（国政も同じですが）の展望のなさに改めて気がさせてくれたこの海遊館問題からの最大の教訓として、最後に示されている「政党とは、議員とは、頼るものではなく、市民が、国民が、その意思と力で動かすもの」という言葉は、まさにこれしかない処方箋として胸に迫りました。「都構想」住民投票後の市議会の状況などを見ていると、はなはだ心もとない気もしますが、この貴紙の呼びかけに私たち市民がどこまで応えられるかが今、問われているように思います。

八戸市港区の反戦平和運動

（磯路・六十代 パート女性）

ごちそうを届けて頂き、ありがとうございます。八戸市は「港区」になる反戦平和の

波」（表紙）として掲載された三つの記事に読み入りました。

特に今の政治を心配して四年ぶりに開かれたという「港戦争展」の記事（八頁）は素晴らしいかったです。残念ながら仕事の関係で観には行けませんが、詳しい内容のおかげで実際に鑑賞したような気分になりました。各コーナーの展示が簡潔にまとめられていて、港区の戦前から戦中・戦後の様子が概観できました。参加された方のインタビューも、みな良かったです。若い女性から八十代の戦争体験者まで、それぞれが自分の体験を元に自分の言葉で戦争と平和を語られ、思わず「本当にそうやー」とうなずいていました。

集会やデモを扱った他の二つの記事（十、十一頁）も、それぞれ今の政治に正面からもの言う姿勢が感じられ、気持ちよかったです。

これらの三つの記事を読んで、今、国会周辺でシールズなど若者を中心に渦巻いている反戦平和の波が、この港区からも押し寄せていることが分かり、心強く感じられました。戦争体験のない私ですが、一人一人ができることをして、

一度と戦争のない世の中にしていかなければならないと思いました。

身近な体験から行政問う提言

（三光・六十代 商店主）

いつも最初に「叫んでいいともー」を読みます。八戸市の「所得で負担が変わる介護保険はおかしい」という小西さんの提言（十一頁）は、自分のお母さんの介護という超身近な体験を元に、介護保険の在り方、つまりこの行政の在り方を問われていることに感心しました。

直接問題にしておられるのは「所得で負担が変わる」という不公平感ですが、その根本になっている「税金無駄づかいの中の国民負担増」を突かれているのが鋭いと感じました。

いつまでもなく私たち国民は、本当に国が苦しいけば、少々の負担は我慢できます。が、小西さんが最後に書かれているように、オスプレイ購入など、国民生活には害とあれ何のプラスにもならない分野に巨費を投じる一方で負担の抑制は、絶対に認められません。

毎回色々なテーマで庶民の気持ちを代弁して

くぐぐぐの小西さんの提言に、「これから期待して」

「あさやけに人生をえた

(波除・六十代 無職)

全戸配布時代からの港新聞ファンです。(八月までは) ったない感想文を取り上げて頂き(文章も読みやすく整えて頂き)びびりするやら嬉しいやら。週刊に乗って(今月も)一筆啓上。(八月までは)何となく「あさやけ」(五頁)に書いてました。五十七歳(いつ若くて逝かれた繁栄商店街振興組の副理事長・近藤洋史さんの追悼文。生前の献身的な活動を振り返った上で、歴史上の偉人である吉田松陰や高杉晋作や小林多喜二の早逝の例やその言葉をあげ、「人生の価値は時間の長短ではなく、その中身で決まる。早死にを必ずしも悲しむべきではない」といついかなを説かれていたように思います。最後の聖書からの言葉「一粒の麦、もし落ちて死なずば、ただの一粒であらん。もし死なば、豊かに実を結ぶべし」は、自分の命を地域のために捧げた近藤さんの「旅立ち」へのこの上ない

↑辻悦子さん(市岡元町)からの絵手紙



賤の言葉になったのではないのでしょうか。退職してから、特に体に支障もないのに何も(仕事も地域活動も)していない自分としては、これから先、どう生きていくか、深く考えさせられた文章でもありました、ハイ。

ナチス以下の安倍集団に鉄槌を

(港の加勢大周)

最近の安倍・自公政権の行動を見ていると、ヒトラー・ナチスよりもさらにたちが悪いと感ずる。強固な反対世論、大多数の政治学者の反対意見を完全に無視し、「国民監視法」「戦争法案」などを「押し押す姿は、まさに独裁者、独裁体制そのものである。しかもそれは、新聞・テレビなどで詳しく報道されているように、戦争大国アメリカの意向に沿ったものであり、対米追従に他ならない。一方、歴史書などでも明らかになつて、ひたすら自国の大企業や富裕層に奉仕したヒトラー・ナチスにはそのような他国への追従はほとんどなく、また彼らには「悪者」なりの大衆を魅了する輝き・知性があった(ヒトラーの演説やナチスの行動が大勢の人々を熱狂、感動させたこととは広く知られている)。しかし安倍・自公にはそういったものはない。ゆえに従来安倍集団はナチス以下のファシストであると言える。我々はこのような集団の本質を見抜き、大衆運動で鉄槌を下し、その力で、真に日本人に奉仕する政府を打ち立てねばならない。

夏の夜空に歓声

三先小で「星を見る会」賑わう



→ 地域一体で三十年を超えて続く「星を見る会」。
次々と天体望遠鏡をのぞく子供たちから歓声
が上がった。八月一日夜、三先小学校校庭

「夏の夜空の下で思い出をつくる」と三先小学校と同校PTAと地域の人々による恒例行事「星を見る会」が今年も八月一日(土)夜、同校校庭で催され、同校児童(四百八人)の大半と卒業生、地域の人々ら合わせて数百人が参加。天体観測や夜店を楽しみました。三十三回目。

十八時半からの開会式では、整列した子供たちに、小松茂・同校PTA会長が「晴天に恵まれ、良かった。地域の協力で開かれたことに感謝し、ルールを守って楽しもう」、上山敏弘校長は「晴天で星が良く見えるか楽しみ。皆のために色々な物を用意して下さった地域の人たちに『ありがとう』の気持ちを忘れないように」とそれぞれ呼びかけました。

このあと子供らは散らばり、校庭の夜店では、たこせん、フランクフルト、冷やしパイン、ミルクせんべいなどの飲食を、講堂では「ストラックアウト」などのゲームを楽しみました。PTAのお母さんたちが汗だくで対応していました。

★ 白鳥座や琴座にピン

メインの天体観測は空が暗くなった七時半過ぎから本格化。子供たちは天文学習DVD鑑賞

などの後、レンズ口径が十センチや八センチの天体望遠鏡四台に列を成して次々と覗き、「見えた」「などと歓声をあげていました。この日は大気の状態もあって明確な像を得るのが難しい条件でしたが、青少年指導員や同校理科教員らが汗だくで、白鳥座や琴座などにレンズを向け、ピンを調整していました。

★ 「楽しくてためになる」と参加者

参加者のうち、五年生の芽衣ちゃん、二年生の花ちゃんを連れ、青少年指導員として世話役もしていた水上広子さん(三八)は「私自身この卒業生で、子供の頃からずっと参加し、月も木星も十星も観てきました。楽しくてためになり、夏の思い出になる、素晴らしい催しです」。また六年生の嬉乃ちゃん、一年生の一角くん(四三)は「天体観測などを通じて地域の仲間意識が生まれます。転校した子も参加できる配慮が嬉しいです」。

また二年生の勇翔くんを連れて参加した吉田美代子さんは「夏休みには必ずあると楽しみにしています。PTAや地域の人たちの協力は本当にありがたいです」と話していました。

楽しく学んだ下水道

市岡下水処理場で「夏休み子供教室」



→「自由研究に役立てて」と開かれた「夏休み子供教室」
 八月一日、市岡下水処理場（写真はパワーポイントで下水道について学ぶ子ら）

「下水道について学び、夏休みの自由研究に役立てて」と八月一日（土）朝、市岡下水処理場（市岡）で小学四～六年生を対象に「夏休み子供教室」が催されました。同処理場の主催で昨夏に続き二回目。十八人（男八人、女十人）が参加し、職員二人が九時から二時間半にわたって先生役を務めました。

● 施設見学のとパワーポイントで

参加者は担当職員から「短時間ですが、中身の濃い勉強をしましょう」と激励を受け、まず同処理場の施設を約二十分かけて見学。下水道を通じて場内に流れ込んだ生活排水や産業排水が、①沈砂池（大きな砂やゴミを取り除く）②ポンプ棟（ポンプで汲み上げ次へ送る）③沈殿池（味噌汁の上が澄んでいく原理で汚れを沈殿させる）④反応槽（好気性の微生物で汚れを分解させる）⑤沈澄池（もう一度汚れを沈殿させてさらに澄ませる）⑥消毒室（次亜塩素酸ソーダで大腸菌などを消毒する）などを経て尻無川へ放流される仕組みを職員の案内で確認。途中、下水処理場のもう一つの重要な役割である雨水処理を担う「第 二ポンプ棟」も訪れました。

このあと参加者は屋内に戻り、パワーポイントで、①大阪市の下水道の歴史②大阪市の下水処理場③下水処理場の仕組み④下水道の役割（街をきれいにする、トイレの水洗浄と生活排水の処理、浸水から街を守る、きれいな水辺をつくる）などを学習。さらに自宅の便所や台所の水がどんな経路で処理場へ送られるかを実感するため、自宅から同処理場までの道順を地図上に書き入れる練習も行われました。

● クイズにも挑戦

このあと付き添いの保護者も加えて二十人が四チームに分かれ、しめくりのクイズ。「四百年前に大阪で初めて造られた下水道は？」（正解は「背割り下水」）「大阪には何カ所の下水処理場？」（正解は「十二カ所」）「市岡処理場の広さは京セラドームの何倍？」（正解は「一七倍」）「市岡処理場のポンプは何台？」（正解は「五台」）「市岡処理場に流れてきた水が綺麗になつて川に出るまで何時間？」（正解は「十一時間」）など十数問に対し、各チームが早い者勝ちでコングを鳴らして回答、正解の数を競いました。最後に職員が「今日学んだことをみんなの生

活や夏休みの自由研究に生かして下さい」と呼びかけ。参加者一人一人に、ポケットライトガン、スーパードングスター、レインボーアイパンチなどの玩具おもちゃから、お好みの三点ずつがプレゼントされました。

●「楽しく勉強になった」と参加者

参加者のうち、クイズの最終問題「反応槽の微生物は何が入ってきたら死んでしまう?」に見事「油!」と正解してチームの勝利に貢献した朝田耕司あさだこうじさん(五ツ田在住)は優勝素ちゃん(私立小三年)の付き添い。広報みなどの案内を見て、自由研究のテーマになるだろうと参加しました。楽しかった上に、とても勉強にな



→下水処理の流れを学んだ施設見学①と、ひろしくんTシャツで教える松谷職員②

りました。これからも続けてほしい催しですね」と話していました。

また竹下祥恵ちゃん(波除小四年)は広報みなどでこの催しを見つけたお母さんから知らされて参加。「少し前に海老江の下水処理場へ社会見学に行ったことがあり、もっと知りたいと興味を持ちました。この処理場のポンプを全部運転すると一分間に二十五リットル七杯分も排水できるなど、とてもよい勉強になり、自由研究にも役立ちそうです。フリスビーやシャボン玉などの玩具もいただき、とても嬉しいです。また参加したいです」と話していました。

また須永紗世ちゃん(市岡小四年)は一昨年この処理場の施設見学に来て「もっと知りたい!」と強く願っていたところ、このイベントを知り、参加したそうです。「とても面白く、勉強になりました。微生物の働きによって、汚れた水がだんだんきれいになっていく仕組みが学べ、微生物には油が悪いことも分かったので、これからは油を流さないよう気を付けたいと思いました。自由研究のとても良い題材になりました。マジックグラスとフライングUFOな

→地図で自宅からの下水の流れを教える高橋職員①と、楽しく競ったしめくくりクイズ②



などの玩具もいただき、とても嬉しいです。また参加したいです」と話していました。

●「より分かりやすく楽しく」と職員

担当職員の寺坂隆志さんは「昨年は初めてということで参加が少なかったですが、今回は区や市の広報に加え、各小学校を回って参加を呼びかけるなど周知を強めた結果、大勢の参加が得られ、嬉しく思っています。内容も、若い職員の知恵やアイデアを採り入れ、より分かりやすく楽しくを心がけ、クイズにも工夫を凝らしました。普段はあまり意識されない施設ですが、こうした機会を通じて市民の皆さんに親しんで頂けたらと願っています」と話していました。

みなとプロレス活況

女性レスラー引退に大声援



→今年も迫力のパフォーマンスが展開された「みなとプロレス」Ⅱ八月十六日、港区民センター(写真はHARU。さん)の引退試合

迫力のパフォーマンスに大声援。八月十六日(日)午後に港区民センターで催された「みなとプロレス」には区内外から百四十人が来場。多彩な力と技の競演を楽しみました。「プロレスで地域を元気に」「青少年に正義感と勇気を」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー^{はやの}隼野さん)による第五回興行。

◆弱者はげましたHARU。さん

試合は、十分一本シングルマッチから六十分一本タッグマッチまで六試合。このうち第一試合は女性レスラーHARU。さん(五〇)の引退試合として最大の盛り上がりを見せました。

花道を勝利で飾れなかったものの、試合後にはレスラー仲間から「仲良くしてもらい、楽しかった」「プロレスラーには年齢も男女も関係ない。また戻って来て」とエール。HARU。さんは涙を浮かべ、「みなとプロレスは永遠に不滅です!」と絶叫。引退を告げるアンカウントが打ち鳴らされる中、会場から投げ込まれた三色紙テープがリングに乱舞しました。

みなとプロレス唯一の女性レスラーであり、介護士としても働くHARU。さんは、小さな

体で屈強な男性レスラーに立ち向かう姿が長年弱い立場にある障害者や高齢者を励ましてきましたが、アキレス腱断裂やその後の体調悪化で引退を決断、今回が最後のリングとなりました。

◆魅力のパフォーマンス

その他の試合でも、次々と繰り出される高度な技、巨体がマットに叩きつけられる際の衝撃音、相次ぐダメージに耐え抜く強靱な肢体、息詰まる攻防の合間に見せるユーモア溢れる仕草や口撃が観衆を魅了。特設リングとその周辺で展開される肉體パフォーマンスは、プロレスファンならずとも惹き込まれる魅力に満ちていました。特に場外乱闘では観客にかなりの恐怖を感じさせながらも決して危害は加えない絶妙な匙加減に、プロの技量が感じられました。

◆困難に負けない生き方示す

また今回、これまでと同様、各地の作業所などから障害ある青少年ら多数が無料招待されたことには、生き辛い社会で生き抜く弱者に寄せる主催者の温かな姿勢が感じられました。さらに、そうして招待された青少年が悪役の反則技に「きたねえぞ」「いい加減にしな」と声を張

り上げる姿や、正義派レスラーの反撃に「頑張れ」と拍手を送る姿からは悪役困難に負けない生き方を青少年に示すといっつプロレス本来の役割を「みなと」プロレスが真摯に果たしていることが感じられました。

◆「挑戦する姿に元氣」と男性

観衆のうち住江江から来た田村義治さん(四〇)は三十年来のプロレスファンで、このみなとプロレスも毎回観戦。「今日はHARU。さんの引退試合といっついで妻(二七)と娘(二)を連れて来ました。プロレスは体と体のぶつかり合いが醍醐味ですが、特に彼女の場合は、男に交じって目一杯力を出し、やられてもやられても挑戦する姿に元氣と勇氣をもらってきまし



→興行を主催したみなとプロレス代表・ミッキー隼野さん(上)と、引退したHARU。さん(下)

た」と話していました。

また招待を受けて観戦した西区の障害者作業所カフエミローの十数人のうち、スタッフの松枝克子さん(七〇)は「HARU。さんはいつも色々な形で私たちを応援して下さい、感謝しています。今日は最後の試合といっついで応援に来ました」。利用者の男性は「プロレスは迫力があるところが好きです。HARU。さんは優しくて人あたりがいいと話していました。

◆港区活性化願い、採算いっわず

今回の興行を企画したミッキー隼野さんは、かつてアマチュア覆面レスラーとして活躍し、負傷でリタイヤした後は後進育成などに注力。二〇二一年一月、自らが働き暮らす港区の活性化を願って「みなと」プロレスを旗揚げ。「不況や失業や貧困に苦しむ人たちに元氣にしたい」と採算の厳しさをいとわず興行を続けています。なお、各試合の結果は次の通り(敬称略)。

第一試合(二十分一本)は深谷友和が七分二秒ニールキックからの片エビ固めで根本黨に、第三試合(十五分一本)は藤澤忠伸が四分十二秒ジャストフェイスロックでHARU。に、

←会場を沸かせた高度な空中技(上)や場外乱闘(下)



第三試合(三十分一本)は安藤雅生・守屋博昭組が十二分三十五秒エナジヤイブリアットからのパワーボムで河邑嘉哉・伊禮タケシ組に、第四試合(三十分一本)はスカイデュー・江利川祐組が九分二十九秒ブラセンタでドラゴンユウキ・YANAGAWA組に、第五試合(四十分一本)は富宅飛駆・佐野直組が十三分四十三秒スリーパーホールドでマッチョマイケルズ・べらんハーワ組に、第八試合(六十分一本)は唯我・ミッキー隼野・J・三世・マグニチュード岸和田・サザンクロス組が十八分三秒「ジャーマンスープレックスホールド」でドレイク森松・黒影・ディアブロ組に、それぞれ勝利。

弁天クラブが三連覇

バレー連盟杯、十八チーム熱戦



→十八チームが熱戦を繰り広げた連盟杯バレーボール大会。八月三日、港スポーツセンター（写真は決勝戦でのISOJのアタック）

今夏も区内のママさんバレーボールチームが一堂に会し、楽しくも熱い戦い。八月二十三日、港スポーツセンターで開催された「連盟杯女子バレーボール大会」には十八チームが参加。弁天クラブが優勝、ISOJが準優勝を飾りました。港区バレーボール連盟（数下俊文会長の主催で二十四回目）。

● 萩野久美子・前会長に黙祷

午前九時からの開会式ではまず、五月に亡くなった同連盟前会長・萩野久美子さんの冥福を祈って全員で黙祷。続いて数下会長が「開催中のフルドカップに負けないよう、四区（港・大正・此花・西）大会への出場権獲得を目指し、練習の成果を発揮し、また家庭の協力に感謝しながら、全力でプレーを」と選手たちを激励。来賓を代表して西徳人市会議員が「萩野前会長の生前の明るくも凛々しい姿を思い出す。その遺志を継ぎ、港区のバレーボール活動をさらに発展させられるよう期待する。フルドカップやアニメによる人気、また八月十九日が排球の日とされるなど、チーム再来の感があるバレーボール。競技としての面白さもあるが、日頃の

←開会あいさつをする港区バレーボール連盟・数下俊文会長（後ろは同連盟役員）（上）と、宣誓するMISAKI・高宮城睦主将（下）



練習や普及活動を通じて人間関係が深まり絆が強まることにこそ意義がある。また皆さんの活動は東京五輪へ向けての競技人口の広がりにも貢献している。今日は練習の成果を発揮して有意義な一日に」と呼びかけました。

このあと、MISAKIの高宮城睦主将が「我々選手一同は、スポーツマンシップに則り、正々堂々と戦い、怪我をすることなく、無事に家に帰ることを誓います」とユニフォームと元氣溢れる宣誓で会場を沸かせました。

● 気迫のプレーに沸いた決勝戦

試合は十八チームが三コートに分かれて各一

試合を消化。上位四チームが決勝トーナメント
(準決勝・決勝)に進みました。

準決勝ではISOJが市岡小学校PTAを
二対〇(二十一対十、二十一対十)で、弁天ク
ラブがCHIKKOを二対〇(二十一対八、二
十一対八)で破って決勝進出。

午後四時からの決勝では両チームとも四試合
目とあって疲れがピークに達する中、気迫あふ
れるプレーの応酬で会場を沸かせましたが、決
勝進出八度目の弁天クラブが大舞台での豊富な
経験を生かして地力を発揮、第一セットを失っ
たものの、その後半の追い上げの勢いをかって
第一、第三セットを連取。決勝進出二度目のISOJを二対一(十八対二十一、二十一対十三、十五対八)で破って優勝を飾りました。

弁天クは穴のない守備に加え、一枚セッター
(ベテラン藤川と新鋭青木に六枚アタッカー
(金城、奥澤、小田、栗田、杉森、西川)とい
う攻守の層の厚さが光りました。一方のISOJ
はベテラン中瀬らの的確なトスや二枚アタ
ッカー(エース谷口、池田、一宮)の破壊力あ
るスパイクで第一セットを奪つ健闘を見せまし

←三連覇と四区大会出場を喜ぶ弁天クラブ(前
列中央右は港区バレーボール連盟会長でもあ
る数下俊文監督、その左は高谷潔コーチ)



たが、最後は弁天クの安全感あるバレーの前に
涙をのみました。以上、試合経過部分は敬称略

弁天クは三連覇で通算五度目の栄冠。来年六
月の四区大会への出場権を四年続けて実力で獲
得。一方のISOJは悲願の初優勝ならずも、
三年前の二十一回大会(優勝)につづく決勝進
出で復活をアピールしました。

三位は市岡小PTAとCHIKKO。他のチ
ーム(港南、港南OB、港中OB、港南中PT
A、八幡屋クラブ、AUNTS、築中OB、し
ろはと、波除クラブ、MISAKI、TANAKA、
波除小PTA、LINK順不同)も練
習の成果を発揮して健闘(SEEDは棄権。敗
退後も最後まで、様々な役割を担って運営に協
力しました。

なお、会場にはいずみ鍼灸整骨院(弁天な
どに店舗の男女施術師二人が全時間待機して
膝の痛み、足首の捻挫など)と訴える二十数人に
テーピングなどの予防・応急処置を施し、選
手たちの安全を支えました。

●「練習の成果発揮できた」と弁天ク

終了後、優勝準優勝チームに訊きました。

優勝の弁天クラブは弁天小学校PTAチーム
を母体に結成されて二十数年。数下俊文監督

（港区バレーボール連盟会長）と高谷潔（たかたに けい）
子の指導のもと、同校で毎週一回、一時間と三
時間）の練習を重ねてきました。

たかおはるみ
高尾治美主将は「今日は棄権チームがあつて予選突破がとても厳しくなるハブニングがあつた中で勝ち残れたのがまず嬉しくて、あとは氣楽に楽しく戦え、第一セットを落とした決勝も、その気持ちで乗り切れたように思います。三連覇できたのはやはり、サーブ、サーブカット、レシーブ、スパイク、ブロックなど個々のプレーで練習の成果を発揮できたからでしょう。基本は全員がほぼ出来ており、また誰もがどのポジションでもこなせるので、今後は二つ二つのプレーの精度を高めるよう、中心選手がマークされ始めたので対策を講じるよう、部員補強で選手層をさらに厚くするようなどが課題として考えられますが、それらをやり遂げた先に四連覇も見えていえると思います」と喜びの中にも顔をにれ締めていました。

●「あきらめず頑張った」とSOJー
準優勝のSOJーは磯路小学校PTAチ
ムを母体に結成されて二十数年。監督がない

← 準優勝を喜ぶ I S O J I (後列右端は祝福する港区バレエ・ボール連盟・浜口伊知江、福田真由美、田中喜美子の各副会長より右から)

伊知江、福井



中、OBらの協力を得ながら毎週二、三回、同校で各二時間の練習を重ねてきました。

池田美枝主将は「磯路小の講堂がこの二カ月

駐車場 月租 **18,900円**



- ★24時間入出庫可
- ★屋内につき安心
- ★敷金なしでも可
- ★車庫証明発行可

**大好評
受付中**

ミドルーフ車

車庫高さ1.85m

使えず、合同練習がほとんどできない中、今年度で最後となる私の花道を優勝で飾ろうとみんなが心を一つに最後まであきらめずに頑張り抜いてくれた結果としての準優勝。とても嬉しいです。技術的にはエースの谷口^{ゆぐち}谷さんを中心に、皆のサーブやスパイクがよく決まったことが大きく、OBの中瀬^{なせ}さんに入ってもいい、安定したトスを上げてもらったのも力になりました。今後は、エースに球を集めて圧倒するうちのパターンへつなげるため、サーブカットやレシーブをさらに安定させることが課題になると思います」と話していました。

中学バド 今年も活況

一七〇選手が爽やかプレー



→港南中、市岡東中など十一校の一七〇選手が爽やかなプレーを繰り広げた「中学生バドミントン大会」八月二日、港スポーツセンター

「バドミントンを通じて中学生の交流をと」中学生バドミントン大会が八月二日、港スポーツセンターで開催され、地元の港南中、市岡東中など市内十一校・百七十選手が爽やかなプレーを繰り広げました。港スポーツセンター利用団体交流会バドミントン大会実行委員会（みつしげ）（岡野三津茂実行委員長が主催。シンコースポーツ倶楽部、港区バドミントン連盟、BWAY弁太町店が後援。七回目。大会は団体戦で、各試合はダブルス・シングルス・ダブルスで進行、各ゲームは十九点マッチで行なわれました。

● 三年は東住吉中などが優勝

このうち三年生の部には春日出・東三国・長吉・墨江丘・城東・東住吉・大領・宮原・港南・市岡東の十校から十五チーム・九十二選手が出場。五ゾーンに分かれての各総当たり予選リーグ戦の戦績に応じた一〜五位決定トーナメント戦では、東住吉Aが、六〜十位決定戦では春日出Aが、十一〜十五位決定戦では東住吉Bがそれぞれ優勝を飾りました。港南（田中寧菜・土佐優果・山本莉静・平菜摘・稲川なのは・木島亜子・赤松花春・森田麻那の八選手）は予選を一位で通過し、一〜

五位決定戦では三位に、市岡東（園千尋・藤井笑瑠・川畑麻弥・板野れい・野田奈未・相原音藍・池上怜臣・白崎綾雅の八選手）は予選を一位で通過し、六〜十位決定戦では一位に入りました。

● 一・二年は墨江丘中などが優勝

一方、一・二年生の部には長吉・歌島・東住吉・城東・墨江丘・東三国・春日出・宮原・大領・港南・市岡東の十一校から十二チーム・七十七選手が出場。四ゾーンに分かれての各総当たり予選リーグ戦の戦績に応じた一〜四位決定トーナメント戦では墨江丘が、五〜八位決定戦では大領が、九〜十一位決定戦では歌島がそれぞれ優勝を飾りました。港南（土田桃華・源嶋保乃香・古澤瑞己・藤谷菜田・村田静華・山口彩奈・藤原利子・長谷川琴この八選手）は予選を一位で通過し、一〜四位決定戦では一位に、市岡東（坂本彩乃・谷柚月・高島美来・田頭明結・横田愛・森島明美・岸英里奈・廣田江利香の八選手）は予選を一位で通過し、五〜八位決定戦では一位に入りました。

交流を第一とした健康的な熱戦と共に、終了後には全員で清掃するなど、教育の視点を欠かさない主催者の運営ぶりも注目されました。

健康的な駆け引き

みなと麻雀大会、岡野さん優勝



→ 独特の緊張感と健康的な雰囲気が印象的だった第三十九回「みなと麻雀大会」八月三日、磯路三丁目の「マージャンひろ」で

「生きがいづくりや認知症予防に効果がある」と注目を集めている健康麻雀^{まいじゃん}。その愛好者による港区最大のイベント「みなと麻雀大会」(港区麻雀業組合主催)が八月三日、マージャンひろ(磯路三二五・三三、三八五七四・六六四二)で開催されました。三十九回目。

◆ 賭けない・飲まない・吸わない

正午からの開会式では、まず主催者を代表して港区麻雀業組合・竹馬進^{たけま すすむ}会長が「麻雀は判断力・決断力・忍耐力が問われる知的スポーツ。特に『賭けない・飲まない・吸わない』がモットーの健康麻雀は、頭の体操になり、ボケ防止や認知症予防に最適。全国健康福祉祭(ねんりんピック)の正式種目にも採用されています」と健康麻雀の効用を紹介し、「今日一日、存分に楽しんで下さい」と参加者を激励しました。

続いて中嶋弘副会長^{なかじまひろむね}＝マージャンひろ店主^{ちやな}が「八月一日は『ハイの日』。これに因^{ちな}んで毎夏、大阪市各区で麻雀大会が行なわれてきましたが、今では港区だけがしつかり続けています。その裏には会長のリーダーシップ、協賛店など地域の協力、そして何より健康麻雀を愛す

← 開会挨拶を行なう竹馬進・港区麻雀業組合会長(上)と、元気に選手宣誓する徳丸寿子さん(下)



る皆さんの熱意があります」と参加者に感謝を表明しました。

このあと前年度優勝者・酒井尚子^{さかき たかこ}さん代理から優勝トロフィーが返還され、競技者を代表して最高齢の徳丸寿子^{とくまる ひさこ}さん(八八)＝築港在住^{ちくかふ}が「私たち選手一同は今日一日、健康麻雀のルールを守って楽しくプレーすることを誓います」と笑顔で爽やかに選手宣誓。最後に中嶋副会長が「アガリは常に一人(上家優先)」「王牌^{かみせ}は常に十四枚残す」「フリテンはツモアガリのみ(リーチあり)」「二発(ソク)あり」「リーチ後すぐに裏ドラを見ない(上がった時に見る)」「ボン・チー・カン・ロンの発声を必ずすること」などのルールを説明。合わせて協賛者(喫茶店・居酒屋・酒屋・フライドチキン店など九者)の

紹介も行ないました。

◆ 数時間の知的な駆け引き

試合は正午過ぎ、竹馬会長の笛の合図で一斉にスタート。八十〜五十歳の男女二十八人（うち女性十二人）が九卓を囲んで四回戦を行ないました。独特の緊迫感に包まれた数時間の知的な駆け引きの末、優勝は岡野茂樹さん（七六）
＝井天在住、準優勝は藪貫博さん（六七）＝井天在住、二位は岡田正人さん（八〇）＝南市岡在住
＝決まりました。

閉会式では中嶋副会長が成績を発表。上位賞（十位まで）だけでなく、最高得点賞（回戦）と、女性賞（女性トップスリー）、飛び賞（五・十・十五・二十・二十五・三十位、ブービー賞（三十五位）、会長賞（三十八位）なども設けられ、副賞には商品券をはじめ、米、酒、ビール、ウイスキーなどをプレゼント。互いの健闘を讃え合つ拍手や声援や笑いが飛び交い、長時間の緊張から解放された会場は一転して和やかな空気に包まれました。

◆ 「麻雀の魅力は段取りと勘と運と優勝者 優勝の岡野さんは五十六年前から」「みなと麻

←トロフィーを手に喜ぶ優勝の岡野茂樹さん

（前列中）と準優勝の藪貫博さん（同左、三位の岡田正人さん（同右。後列は祝福する（左から 境目孝義副会長、竹馬会長、中嶋副会長
さかめたかし



雀教室」（マージャンひろで毎週日・火・金曜日に開催）に通い、この大会にも毎回出場。優勝は数年前に続いて二回目。終つ後、大要次のように感想を語ってくれました。

「私は昭和十四年四月、広島に生まれ、二十四歳で大阪に出、繊維業界で定年まで勤め、十

年ほどなみはや大橋の料金所に勤務しました。

今は仕事もやめ、子供夫婦三組（八人と孫八人に囲まれ、老後を楽しんでいます。麻雀は広島にいた十八歳の頃に始め、今年で六十年。その中で煙草は早くにやめていましたが、賭け麻雀は続け、それで強くなってきた面も確かにあります（笑。が、健康麻雀教室に通い、勝敗にこだわらず、喋りながらのんびりプレーする中で、麻雀の本当の楽しさが、より分かるようになりました。麻雀の魅力は何といつても手づくり、つまり段取りと勘を尽くした上で運を天に任せるところ。これらが合わさった時に最高の麻雀になります。今日の優勝の要因は、このところ不調だったのが、昨日あたりから上向きになっていたこと。ラッキーでした。これからも、ネットで勉強したりして少しは腕も上げながら、気楽に楽しんでいきたいと思っています。」

全体を通じて、麻雀には付き物とされる飲酒も喫煙もなく、競技の前後には「お願いします」「ありがと」「ございました」と挨拶し合つたなど、知的スポーツである麻雀本来の健康的な雰囲気（あこが）が印象的でした。

核も戦争もない未来を！

朗読劇『被爆の証言』に反響



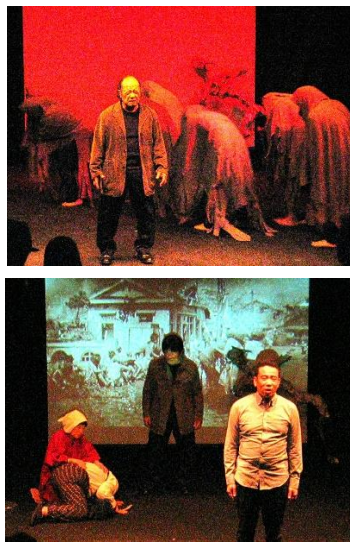
→忌まわしい原爆の記憶と切々たる平和への願いを朗読形式で表現し、反響を呼んだ『被爆の証言』の一場面。八月、波除の石炭倉庫で

「核も戦争もない未来を！」の叫びが胸を打ちました。あれから七十年、被爆者の体験と思いを朗読形式で表現した『被爆の証言』あの日、あの時、わたしたちは『が、原爆投下日である八月六日から九日まで、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを含めた演劇を世に問いつけるあんがいおまる一座のスタジオ公演。広島・長崎の原爆被害者の体験記からあんがいおまる座長が構成・脚本・演出。ヨッシー原本さんくめくめさん、前川潔さん、岡戸淳子さん、山根子さん、道野学さん、八上範之さんら同一座の座員と共に、大阪アニメーションカレッジ専門学校に学ぶ安部みなみさんも迫真の演技で反核平和のメッセージを発しました。

◆胸に迫る圧倒的な真実

素材となったのは、大阪府原爆被害者団体協議会が一九九一（平成三年）に刊行した『被爆の証言』（公島 百十一人、長崎七十五人）。その中から同一座が広島八十人、長崎二十三人を抜粋。これらを数人の役者が次々と交替で朗読す

「胸を打った焦熱地獄の中での苦悶の叫び」と凄惨な廃墟の中での悲しみや無力感の訴え



るといつ構成で舞台は進みました。

核爆発の瞬間の光と音の衝撃、変わり果てた街の風景、収容所の凄惨極まりない光景、苦悶と死を前に何もできなかった無力感と悔恨、戦後も長く続いた原爆症の苦しみ。実際に体験した者でなければ口にできない事実や感情の生々しい表現の連続が、圧倒的な真実性をもって観客の胸に迫りました。そして、それらを集約する形で、現在の内外情勢（原発再稼働や安保法制）を俎上に乗せ、戦争を起す者や未だに核を使おうとする者への怒りをストレートに表現。どんな大義があるってこんな兵器を使うのは人間じゃない「アメリカ力は未だに謝罪も救

済もしていないなどの叫び、特に出演者全員の
思いを凝縮させたラストの「核も戦争もない未
来を!」の唱和には崇高な響きがありました。

◆ 長丁場を飽きさせない演出も

つづいた直線的な進行の一方で、戯面作家・
神野翼さんによるオブジェや仮面を使った小
芝居、原爆を象徴的に表現した音響や照明(ハ
上和裕さん)、希少な被爆映像の大写し、さら
には群読や音楽劇形式を組み入れた演出が舞
台にメリハリを与え、一時間に及ぶ長丁場を倦
ませることなく運び切りました。また体験記の
内容に合わせた各役者の熱情的で個性的な朗読
には台本読み込みの蓄積が感じられました。

美しい詩(まるさん)と曲(岩城利之さん)か
ら成る挿入歌『八月の光の中で レクイエム』は
紺碧の夏空を思い描かせ、被爆者の悲嘆と平和
への願いを一層掻き立てました。全体として、
「できれば思いついたくはないが、忘れることも
できない」という二人一人の血を吐くような体
験を、単なる歴史回顧に留まらず、「日本の
宝物」として、現在と未来の平和のために生かそ
うという劇団の真摯な姿勢が伝わってきました。

演劇ガイド

● あんがのおまの一座・朗読による『夫婦同穴』

カミダ

『髪頼み』

波除のフリースペース・石炭倉庫

を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッ
セージを込めた演劇を世に問い続けるあんが
おまの一座のスタジオ公演。古き良き大阪の人
情を描き続ける直木賞作家・難波利三さんの二
作をあんがのおまの座長が演出。「私、もう二
人、大阪の道頓堀の舞台に立ちたいんです。太
阪のお客さんを笑わせたいんです」「夫婦同穴」
から。「実を言つと奇跡が起こりましてね。今
朝、目を覚ますと、こんなに見事に毛が生えて
いたんですよ」「髪頼み」から。出演はあんが
いおまるさん、ヨッシー・原本さん。九月十九日
(土)と二十日(日)の十三時、十四時半、十六時
の計八回。前売一本十五百円、一本 千八百円。
上演時間などの問合わせ：申込みは会場の石炭
倉庫(波除ハ・五・一八)JR井天町駅から国道
四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右す
べ。 ☎六五八・一〇六六四、FAX六五八・
二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二二
〇・三三四・二・三三九へ。《読者プレゼントあり》

芸能ガイド

● 藤かほり「盲導犬チャリティショー」二目の

不自由な人たちに盲導犬を!と波除在住の演
歌歌手・藤かほりさんが開く恒例イベント。二十
回目。盲導犬養成のため一回ごとに収益から視
覚障害者施設「日本フライトハウス」に寄贈して十
回目に一頭分達成。一頭目の養成をめざして継続
中。九月二十七日(日)十三時から港区民センタ
ーで。入場料 千円。『男の夢一代』など艶も
情も迫力もある「がほり節」をたづね。人
気漫才師・正司敏江さん、港区の演歌歌手・杉
俊一さん、北海道の歌手・川村正幸さん、「港
区の大爺よしみ」と天井よそみさんら多彩な
ゲストが応援。 ☎六五八・二二四一 藤正画。



「盲導犬を贈りましょう」と呼びかける藤さん

みなと

人生

劇

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづける「正地」ドラマ。第八弾は、田中在住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こうらんばし そら

幸運橋の空 (十二)

(前号まで「デイサービス」に通う久美子は次男の勤めで回想録を残す事になった。大正十年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれた久美子は、博打に目がない父に苦労させられながら、奉公の連続で家族を助けた。引越先の港区でも学校を離れて二年間の子守奉公。十三歳でようやく家族と合流。母と宮子海産物店で一家を支えた。この間に中国から太平洋へ戦火は拡大、久美子らの生活も軍事色に染まってきた。昭和十七年十二月、近所の船大工の次男・大東正義と見合い。父は次々結婚を承諾した。)

● 結納金五百円、「玉の輿」結婚

見合いから五日後の十一月十五日に結納。同日には結婚式。一と、とんとん拍子で事は進んだ。戦時下という事情も手伝って、今から見ればものすごいスピード結婚だった。百円札はおろか十円札を手にしていても「猪」持つてる。」と驚かれるくらいの時勢に、結納金は五百円。近所の人から「玉の輿や」「玉の輿や」と冷やかされ、羨ましがられた。そんな事情を耳にしたからか、それまでめったに付き合ったこともない母の義兄が、お祝いを持ってやって来て、「ええとこ行ったなあ、クミちゃん」と親しげに話しかけたのを久美子は覚えている。

● 大東家へ嫁入り

結婚式は金曜日の夜、大東家本宅で執り行なわれた。

久美子の家には振袖などなかったが、近所の人から「留袖やけど、うちにあるから、それ使ってくれたらええ」と、草履などもきめた一式を貸してくれた。「一階で髪結いさんに髪を結ってもらい、出て行くと、五人くらいの男の人が途中で提灯を持って迎えに来てくれた。間口

の広い大東家の玄関には家紋の五七の桐(豊臣家の定紋)の入った幕が張ってあった。式場では謡曲『高砂』が謡われ、ヤトナ(雇われ女)一人がお酌をして回った。

久美子の嫁入り道具は、海産物店をしていた頃に習ったお茶(表千家)やお花(池坊)の道具、それに、父が結納金(五百円)で買ってくれた大きな筆筒と水屋と鏡台、それに布団一式と下駄箱だった。そのことを思い返すと久美子は今でも、「あの時の五百円は値打ちあったなあ」と改めて感じる。

ところで、働き者だった新郎の正義は、この結婚式当日の夕方まで、普段通り仕事をしていて、久美子はあとで知った。

● 立派だった大東家

大東家の住居は立派で、本宅(つまり義父母の住居)は奥が八畳、手前が十畳、真ん中が六畳ほどの仏間で、嵌め込みの仏壇があった。ガスなどまだほとんど普及していない時分だったが、既にガスが備わり、久美子は「ガスって便利やなあ」と感心したものだ。尤も風呂の燃料には、家業で出る木っ端を使っていた。

大東家には別宅もあった。が、長男が満州へ出征して既に三年たっており、その長男の嫁は、義父母とあまりうまく行かず、神戸の実家へ帰っていたので、その別宅は次男夫婦（つまり久美子たち）の住居に充てられた。その一階には前から橋本という夫婦が家賃十七円で暮らしていて、久美子たちの結婚で出て行ってもらったことになっていた。が、橋本夫妻は「どこにも行くところないから、おらしてください」と義父に頼み込み、義父は「まだ（次男夫婦に）子供もないし、ええわ」と承諾。それで橋本夫妻は何とが一階に住み続けることができるようになった。久美子たちの新居はその一階（六畳と四畳半の間）だけになった。その一階へは裏の階段から直接入りできるようになっていた。

● 物不足の中、新婚生活の感慨

「この昭和十七年暮れから十八年にかけての頃は、生活用品のほとんどが「配給」になっていた。食品でも自由販売されているのは筍と蒟蒻（こんぶ）くらいだった。新婚早々の久美子たちもやはり、物不足の中で工夫を凝らした生活を送らざるを得なかった。乾麺を水に浸けておき、



水を切って練り、油で揚げて天麩羅にする。塩味でおいしく食べられた。また「玉子の素」といって、卵を乾燥させたような物を売っていて、それで卵焼きを作って食べたりもした。

そんな中、昭和十七年も暮れようとする十二月のある日、夫の仕事が終わってから二人で「港劇場」へ行ったことがあった。確か一階は「大衆席」で料金は十銭、二階は「特別席」で二十銭だった。「一統さん（あん）くい」と懐中電灯で階段を導かれ、一階のボックス席に腰を沈めた。そして夫の肩へ微かに寄りかかしながら、映画を観た。どんな映画だったかは忘れてしまったが、この時、一人の男性と生涯を共にするようになった感慨が改めて湧き上がり、何とも言えない気分だったのを久美子は今も覚えている。

● 夫は前にも見合っていた

ところで夫・正義は、地元の石田神楽町で

在郷軍人会の班長と隣組の班長をしていて、兵隊を送り出す際には旗を持って祝辞を述べたり、戦時国債を町内で捌き切れずに自分で抱え込んだりしていた。

その石田神楽町には女子部があり、その班長にはある鉄工所の娘さんがなっていた。近所の写真屋にその写真が大きく飾ってあるくらい、とてもきれいでスタイルのよい人だった。正義は久美子より先に何度か見合いの経験があったが、その女性とも見合っていたということだった。しかし「こっちから断わったんや」と夫は言った。「人間浮き沈みは付きもので、ええ時ばかりやない。どんだけ落ちぶれるか分からん。その時にうまくいって対処できん嫁やったら子供が可哀想や。そやから断わったんや」。夫はこのようにその理由を話してくれた。働き者でしっかり者であることを見込まれた結婚であったことに、久美子は喜びの中にも、改めて身の引き締まる思いがした。

ところが、それから間もないある日、その喜びを掻き消すような物を久美子は見つけた。

（つづ）

平和のため

戦争体験

語り継ごう

おがわ ひろし

小川 宏さん(八〇) 井天在住 ④



前まで昭和十年、港区西市岡に生まれた私は太平洋戦争開始のあと国民学校へ。十九年九月から香川県へ集団疎開。二十年三月の大阪大空襲で我が家は焼失、弟は衰弱死。家族で疎開した三田では過酷な勤労奉仕に携わった。

機銃掃射、そして終戦

戦後は酒販業や町会活動で地域貢献

その間にも日本の形勢はいよいよ悪くなり、大都市だけでなく、近くの市街地も頻繁に空襲に曝されるようになりました。私や母はそれらの街の空が炎で真っ赤に染まるのをお寺から眺めていましたが、かなりの距離があることもあって、その怖いとは思いませんでした。それでも毎晩すべ逃げられるよう、西脚にゲートル(小幅の布)を巻いて布団に入りました。

◆米軍機に襲われる

この兵庫県三田での疎開生活の中で怖かったのは機銃掃射でした。それは七月十九日、とても暑い日でした。三田国民学校から昼前に下校しようとした時、米軍機に襲われたのです。後で知ったことですが、この飛行機は播州方面から飛来した米海軍の艦載機「フママン」機で、恐らく陸軍部隊が学校に滞在していたからでしょう、校舎に狙いを定めてやって来たのです。私たちはみな必死で校舎の陰に隠れたため、

犠牲者は出ませんでしたでしたが、米軍機が去った後、飛行機の両翼から発射された弾丸が二列で一定の間隔を置いて、カチカチの校庭へ深くめり込んでいるのを見て、その凄まじい破壊力に生きた心地がませんでした。また、これも後で知ったことですが、このとき「フママン」は学校だけでなく田畑や一般家屋も襲い、三田市全体では下校中の児童四人と農作業中の女性一人が亡くなり、農家四戸が全焼したといっています。

◆「竹藪へ行かんのです」

そうしてやがて八月、日本はアメリカなどの連合国側に無条件降伏し、十五年の長きに亘った戦争はようやく終わりを告げました。

敗戦を告げる玉音放送は八月十五日の正午近く、ラジオで流されましたが、私は聞いておらず、周囲の大人たちが「終わったんや」と騒いでいたことで終戦を知りました。が、まだ四年生だったこともあって、敗戦を「悔しい」とか「悲しい」とか感じることはありませんでした。むしろ、先にお話したように、過酷な勤労奉仕に死ぬほどの疲れを覚えていた私は、「ああ、これで明日から竹藪へ行かんのです」と胸をな

でおろしたくらいでした。

◆ 鳴尾中から市岡中へ

私たち家族はこれを機に、親戚の伝手で西宮市鳴尾(武庫川女子大の近く)へ移り、私はそこから鳴尾東小に通いました。教科書が急にべらべらになってびっくり、翌春の五年生からは旧漢字が一気に新漢字になって、またまた戸惑ったものでした。そこを卒業して、同じ鳴尾の鳴尾西小に間借りしていた鳴尾中に入学。昭和二十四年、一年生の途中で港区に戻り、市岡中に転入しました。そのとき同校は市岡高校に間借りしていたことから教室が足りず、朝組と昼組に分かれて授業を受けたのを覚えています。

◆ 無事に復員できた父の体験

「」で少し父の戦争体験に触れます。先にお話したように、父・貞義は明治四十一年生まれで一人っ子でした。大事に育てられ、幼稚園の行き帰りには姉や(女中さん)が付き添っていつ少年期を送っていたのですが、昭和九年に南市岡で室戸台風(遭い)、その時に腸チブスの予防接種を受けて本当の腸チブスに罹り、それ以来、胃腸の弱い虚弱体質になりました。

↑玉音放送に涙する国民(上)、敗戦の苦難に追い打ちをかけた昭和二五年のジーン台風(下)



兵隊検査では「肺浸潤」と診断され、戦争末期の昭和十九年に三十五歳で召集。酒屋組合の人たちに「あなたは体が弱いからすぐ帰って来られる。そやから餓別はせえへんで」などと見送られて出征しました。赴任先の広島県呉市の海兵団では上官からお前は体が弱いけん帰っても残っても、どっちでもええぞと言われ、「いや、お国のために残ります」と答えたそうです。実際、その後の軍隊生活で鍛えられた父は心身ともに逞しくなっていました。やがて新しい赴任先・小笠原諸島の母島へ船で向かうよう命令が下され、「これは生きて帰れない」と覚悟したそうです。が、どっぴりい訳が、

船は瀬戸内海を抜けてすべの高知県宿毛市の沖ノ島で父を降ろしました。島では、中学出の学識を買われて特殊潜航艇を格納する洞穴を測量する任務を与えられたのですが、他の兵隊のように肉体労働を強いられることもなく、むしろ島の女性たちから色々と温かな世話を受けたりして終戦まで過ごしたそうです。

◆ 市岡高から市立大へ

そんな事情で、父は戦争が終わるやすべに復員できました。そして港区で元の酒屋をもつ一度やろつと決心し、借金して魁町四丁目(今の弁天公園)の関西汽船あたり(に中二階の店舗兼自宅を建てることにしました。が、あと四〇五日で移り住むことになっていた昭和二十五年九月三日、私が中三の秋でしたが、京阪神を襲ったジーン台風の物凄い風が四方八方から吹き込んで半壊してしまつたという災難に遭いました(その後、再建しました)。

(このあと私は市岡高校から大阪市立大学に進みました。同大学は当時、西区の明治小に間借りしており、一回生からは住吉区杉本町に移りましたが、正門の真ん中には米軍のポリボッ

クスがあつてMP(憲兵)が警備しており、我々はその横の二尺幅ぐらいの鉄柵の間の通路を通つて教室に入つたものです。昭和三十年頃でしたが、戦後十年も経つのにまだ敗戦をひきずつてゐる感じが感ぜられてなりませんでした。

◆ 酒店主として四十六年間

昭和三十年代に入ると父の酒販業もようやく軌道に乗つてきましたが、その頃になつて、昭和二十一年から進められていた港区の土地区画整理事業による地上げのため、他の二店舗と一緒に現在地(弁天五丁目)のすぐ近くへ移り、共同でブラック店舗を建て、営業を続けました。そして、私がまだ大学在学中だった昭和二十三年、現在地に店舗兼住居を移したのです。

大学を卒業した私はいったん福助足袋に就職しましたが、その頃から父の体力の衰えが見えてきたので、店を手伝つことに決め、七年後に退職。その年、昭和二十九年に結婚し、同四十二年には正式に後を継ぎました。そして平成二十四年に店を閉じるまでの四十六年間、酒販店主として営業を続けました。

この間に、大阪府小売酒販組合港支部の副支

部長や同支部第一支部の部長として、酒販免許制度の再構築運動などを通じ、微力ながら、過当競争による弱肉強食の防止や地域小売店の共存共栄に努めて参りました。

◆ 地域のため町会長として

また戦後港区の土地区画整理事業の終盤五年間にはその審議会委員を、収束後はその記念事業の協議会委員を務めると共に、二十一年前から地元・弁天五丁目東町会の会長に就くなり、地域発展のためにも微力を尽くしてきましたつもりです。ついでに申しますと、私がこのように地域活動に長年関わつてきたことの裏には、戦後のまだ日本も我が家も大変苦しかった時期に年間八千円という高校よりも安い授業料で大学生活を送らせてくれた大阪市への恩返しという気持ちもあつたことを付け加えておきます。

◆ 戦争は絶対いけない

さて、父は昭和八十二年に七十九歳で、母は平成元年に七十五歳で他界。現在、娘三人に孫三人。長女一家と同居しながら、妻と来し方を振り返りつつ、何とか世間並みの老後を通して頂いておりますが、八十年の人生を振り返

つて、その過酷ではなかったものの、やはり疎開生活など戦中の思い出が強烈です。

十数年前に弁天小学校でそのささやかな体験を話し、それを元に見聞と手紙のやり取りをしたことがありますが、その際にも強調しましたように、兵隊同士がドンパチ撃ち合つたり殺し合つたりするだけが戦争ではない、その後ろで、つまり銃後で、女性や老人や子供らが、どれだけ困難や苦勞や犠牲を強いられるかをよく考えてほしい、そしてどんなことがあつても戦争だけは絶対に起してはいけない、起こさせてはならないということを、今一度、声を大きくして訴えたいと思います。

その点で今、日本の政治家の中に、軍事大国アメリカにはやたらペーパーする一方で、中国や韓国などの近い国を必要以上に敵視する無配慮な言動が目立つのが、心配でなりません。

あの七十年前の愚と悲慘を繰り返すことが二度とないよう、私たち戦争体験者をはじめとする国民みんながそうした社会の在り方に関心を抱き、日本が本当に平和で心豊かな国へと発展するよう願つてやみません。(おわり)

ライブガイド

● **ハ横屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガール」の十八枚目の

アルバム『**解識**』(直撃)翼の記憶「**厭離穢土**」など十一曲好評発売中▽十月十一日(日)十八時半から江坂ミューズ(吹田市豊津町二〇一

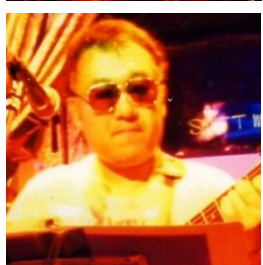
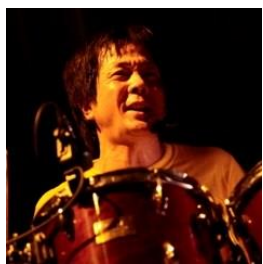
五)ライブプラザブルーミン五階 地下鉄江坂駅⑨出口徒歩分、**ハハハ七〇二〇三**で、十月十

二日(月祝)十八時から神戸キョシヨージ(神戸市中央区下山手通一・七・二・地下一階

JR・阪急・阪神三宮駅歩十分、**ハ〇七ハ・三三・〇一四八**で開催のガールワンマン

ライブ「**饜餮龍**」に出演予定。

↑桐田勝治さん(上)とハドローさん(下)



● **三先のフォーク歌手、ハドローさん** 切断フラザ

ーズ(左手親指切断の共通体験を持つ)三人で結成のリーダーやソロで温かな雰囲気、オリジナルフォーク▽毎月第二・三木曜 千時からバ

「ザ・セラ」(中央区西心斎橋一・七・二・三新スミヤビル地下、**ハハ二二・六四二七**で

「アメリカ村フォークジャンボリー」主宰▽毎月第一火曜 千時半からバーロージー(中央区

西心斎橋一・九・五)宝三ツ寺会館地下二階、**ハハ二二・三九九九**で開催のノンジャンル

ライブにレギュラー出演▽毎月第三火曜 千時から「かつおの遊び場」(中央区宗右衛門町四・

五)宗右衛門町センタービル一階、**ハ〇九〇・五八八・七〇二五**で開催のノンジャンルライ

ブに「切断フラザーズ」としてレギュラー出演。

● **市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」**

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』▽十月十四日(日)に尼崎市文化財

収蔵庫(旧城内中学校校舎、尼崎市南城内十番地の二)で開催の「あまがやの歴史音楽祭」の監獄

の二で開催の「あまがやの歴史音楽祭」の監獄

↑花☆キャラの演奏風景



ステージ(旧尼崎警察署)に正午半〜十三時ごろ出演予定。他に①凡天堂ステージ②二丁目の夕日ステージ③武道場ステージも▽HPは「花☆キャラ」で検索可、港新聞HPからリンクも。

住まいの防犯レベル高め

①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(ア) 港カギ防犯センター

安全・安心をご提供します

港区港晴1-4-8 (港晴小学校並び)

港カギ防犯センター

☆大阪府鋭前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

みなとカルチャー

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「関西フィル
名曲アワー in オリックス劇場」
おおもなおと
「大友直人と



→ 指揮を担当する大友直人さん(©Rowland Kirishima)と、マリンバ独奏を担当する名倉誠人さん(©増浦行)と

贈る極上のひととき。郷愁、希望、そして未来へ…と題して、日フィル、東響などの指揮者を歴任し、NHK大河ドラマのテーマ曲指揮も手掛ける大友直人さんの指揮で、富田勲、真島俊夫、チャイコフスキーによる新旧珠玉の名曲を。第一部では、拍子木の響きが郷愁をかきたてる『新日本紀行のテーマ』(富田勲作曲)と、

ニューヨークを拠点に世界で活躍するマリンバ奏者・名倉誠人さん(関西フィル初登場)のソロが冴える『大樹の歌』マリンバとオーケストラのための協奏曲』(真島俊夫作曲)を、第一部ではチャイコフスキー晩年の最高傑作とされる『交響曲第6番 短調 作品74』を演奏予定。司会には都築由美さん。十月十五日(木)十九時からオリックス劇場(旧 大阪厚生年金会館 地下鉄四ツ橋線「四ツ橋」駅又は「本町」駅下車)で。S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席(二十五歳以下)千円。全席指定 消費税込。 ☎六五七七一三三一。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第十

「弁天町ORC200生涯学習センター」「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する笑福亭學光さん(上)と旭堂南鱗さん(下)



七回、通算第一四九回。九月二十日(水)十九時二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南鱗さん(大阪出身の講談師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は桂春若さん(大阪府出



→ 第二四九回オーク弁天寄席に出演する桂春若さん(上)と桂恩狸さん(下)

身、桂春岡治一門へ、桂園狸さん(高松市出身、桂文枝一門、文福の弟子)も。先着百二十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席第五〇回スeshal」旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第十八回、通算第五〇回。

十月十一日(月)祝十四時からオークホール(オーク200一階八階)で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は笑福亭鶴光さん(大阪市出身、笑福亭松鶴一門)、伏見龍水さ



→第二五〇回オーク弁天寄席に出演する笑福亭

鶴光さん①と伏見龍水さん②と露の紫さん③

ん(曲独楽師、露の紫さん(愛媛県出身、露の五郎兵衛一門、露の都の弟子)も。先着百五十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四二〇。

● 港図書館 ①蔵書点検休館日九月三十日(水)〜十月五日(月)に本や雑誌などの所蔵点検のため(休館中の返却ポストへの投函は返却処理が遅くなる場合あり)②あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(十月は一日が蔵書点検休館のため第一金曜日の九日の十一時〜十一時半にえほんコーナーで。赤ちゃんを保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるようプログラムを工夫。毎週の「おたのしみ会」より赤ちゃん向け。申込不要③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日の十五時半〜十八時にえほんコーナーで(九月二十三日は祝日のため、三十日は休館のため休み)。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要▽☎六五七六・二三四六。

● ぎやうりー&かひえ風庵「織葉 曼茶羅原画展」九月二十三日(土)〜十月三日(木)まで好評展示中。「風庵」は南市岡三二一〇(繁栄商店街内)、☎四九六五・五九八二(十時〜十八時開館(日曜定休)。

←風庵「織葉 曼茶羅原画展」いろいろどりの世界」を案内する織葉さん①と展示品の一部②



展「いろいろの世界」「人生を良い方向へ導いてくれる不思議な力がある」という先史時代からの芸術「曼茶羅」を描き続けるアーティスト織葉さんの原画展。「曼茶羅の中心を見ていると心が穏やかになり、明るく力強くなり、本当に大切なことを思い出させてくれます」(織葉さん)。九月二十九日(火)まで好評展示中。「風庵」は南市岡三二一〇(繁栄商店街内)、☎四九六五・五九八二(十時〜十八時開館(日曜定休)。

● ギャラリーはたなが「まいど六人展」大阪市〇B八人による懐かしい風景の漫画・水彩画・油絵など。十月一日(木)〜八日(火)。十一〜十九時(最終日は十七時まで)。磯路二二二・五

(港区役所向かい)。☎六五七二・五九八七。

● **ラ・カル展** 平和の願いをキャンバスに込めて

絵画人生を送ってきた川島恵美子さん(八四)は八幡屋在住の「平和美術展」を通じた絵の仲間四人(坪井藍子さん、伊藤美恵子さん、坪井功次さん、山内比呂子さん)による合同作品展。九月十九日(土)～二十七日(日)の十一～十八時に画廊&アトリエ「ガレリア・リバリア」(三先二・二三二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。入場無料。☎七五〇二・四一八八。



→「ラ・カル展」出品予定作品から。左上から時計回りに坪井藍子さん、伊藤美恵子さん、山内比呂子さん、坪井功次さんの作品

● **ガラスアート・ナカイグループ 金元奈保美**

& 飛垣美香 **ガラスアート二人展** ガラスア

トは京都手描き反禅手糸目技法を応用した新しい芸術。三原色を基本に、竹串を使い、色遊びの感覚でガラス特有の透明感・幻想感を楽しめる。「地域に密着した文化を育てたい」と活動するガラスアート・ナカイグループの教室主宰者一人が自作を展示。鑑賞無料。九月十九～二十一日、心齋橋S・M・B・Cコンシューマーファインانس(株)お客様サービスプラザ(中央区心齋橋二丁目六・九 福穂ビル一階 地下鉄難波駅歩四分で。☎八五七六・二三四四 金元 磯路 丁目)。

● **市岡寄席** 市岡住民が運営する地域寄席の八回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人材！」を謳い文句に市岡在住の落語家・桂福丸さん(桂春団治一門)の落語 席を楽しむ。十月十九日(月) 十九時から紫雲山西明寺(市岡二・一・四)で。先着八十名。菓子付き。豪華景品が当たる抽選会あり。車イスでも入場可。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会(市岡地域活動協議会公報部会、市岡連合振興町会など)市岡にゆかりの諸団体や個人

←「ガラスアート二人展」に出品する(右から)

金元さんと飛垣さん(上)と、過去の市岡寄席(下)



から成る。☎八五七二・五八〇六 西明寺。

● **シネ・ヌーヴォー『薩ちゃん 正ちゃん』戦後**

民主的独立プロ奮闘記』& 独立プロ映画 特集

上映』 終戦直後、映画の民主化と労働のあり

方を巡って争われた東宝争議で解雇された人々や、レッドパージで映画会社から追放された人々は、自分たちの望む映画を作ろうと、山本薩夫と今井正を中心に新藤兼人、亀井文夫、吉村公三郎らが独立プロダクションを設立。彼らの監督作品から代表的十四作と、彼らの歩みを関係者の証言などで綴ったドキュメンタリーを九月十一日(土)～十日(日)へ金に上映。九月十五日以降の上映作品は、『薩ちゃん 正ちゃん

『戦後民主的独立プロ奮闘記』(二〇一五年

ドキュメンタリー)、『荷車の歌』(五九年)『太

陽のない街』(五四年)『暴力の街』(五〇年)『浮

草日記』(五九年)『以上山本薩夫、『橋のない

川第一部』(六九年)『橋のない川 第二部』(七

〇年)『うさぎ』(五三年)『うつし生きてい

る』(五一年)『以上今井正、『姉妹』(五五年)

『ともしび』(五四年)『雲流るる果てに』(五

年)『以上家城口代治、『愛すればこそ』(五五年

吉村公二郎)。当日一般四百円(ドキュメンタ

リーののみ千七百円)。上映スケジュールなど詳細



→シネ・ヌーヴォ『薩チャン 正ちゃん』から、

明治〜昭和の農村に生きた女の一代記『荷車

の歌』(山本薩夫⑤と、市井の片隅に生きた

女の哀しみを描いた『にじりえ』(今井正)⑥

は同館(西区九条一・二〇・二四)地下鉄中央線

九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出

口歩三分、☎六五八一・二四二六へ。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌

手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソ

ン百物語」HAMORR・BEEのつた★カフ

エ「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽

ガットネロシャンソンコレクション 第十五回

『午後のシャンソン』≡十月四日(日)十四時か

らたかつガーデン八階(たかつの間)で。ピアノ

藤田稔▽松浦由美子のシャンソン百物語 第九

十四回『ピアノ』≡十月 十五日(日)十五時か

ら。ピアノ 藤田稔。会費 千五百円(一飲物付)

▽詳細はガットネロ(天王寺区上本町六・二・

三七、地下鉄谷町九丁駅⑥出口、☎六六七六七

・〇〇二二へ。

●川島恵美子作品展 平和の願いをキャンバス

に込めて絵画人生を送ってきた川島恵美子さん

(八四)≡八幡屋在住が昭和二十八年からほぼ

毎年開いてきた個展。五十三回目。リアリズム

を基調にした迫力と温かみのある風景描写が特



←「川島恵美子作品展」が開かれるガレリア・リ

バリア(三先)⑤と展示予定作品から「ニルギ

リ峰とマルファール村」(油彩、F100号)⑥

≡十月十八日(日)の十一〜十八時に画廊&ア

トリエ「ガレリア・リバリア」(三先・一・三・

二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。

入場無料。☎七五〇二・四二八八。

●ねじやうしのシャンテ☆カフェ 懐かしい

歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。

毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡

屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リ

クエスト中心に約一時間。新オリジナル歌集を

頒布中。参加費千円(税込)。九月は二十八日。

問い合わせは「ねじやうし音楽事務所」(☎六

五五六・六八八八)まで。

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性化直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検定** (分四) 一三三七三津神社西側 **分五** 一六八七七。

● **放課後・春・夏・冬休みは学習保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三四(西原)か **分六** 一六八四三あおぞら学童。
● **石炭倉庫のレッスン** 吉津たかし先生の所作レッスン、志保先生の歌唱レッスン、あんがにおまの朗読教室、河野明夫の三味線を習おう。一回 千円、波除六・五・一八、**分七** 一六八八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇。



→石炭倉庫の吉津たかし先生(上)と志保先生(下)

● **介護のことばお任せ** ①老いの相談②手続き代行③デイサービスは送迎付で入浴・食・カラオケなど④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院など手伝い。NPOみなと合同ケアセンター(南

市岡二・六・一六、**分八** 一六五八二・四八八〇。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館ひらのや(南市岡二・一・一八 繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所相談支援事業所わたぼうし(分四) 一・一八・一〇、**分五** 一六八五七六・〇一〇〇、FAX六五七六・〇一〇三。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小中・高生も楽しく練習。月会費八千円(無期限十枚つり券八千円)。入会金一万円をうち半額。

練習日は月・水・金の十九時半～二十一時半。港ボクシングジムは三先二・三三・九。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四土曜の午後二～五時に港近隣センター(八幡屋二・四・二〇)会議

室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。〇九〇・二二九八・八四四二瀬戸。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送お出かけから普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント(八幡屋二・四・一八、入舟公園前、大阪信金横、十・十八時営業、日月定休)。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当月の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィルハーモニー管弦楽団「関西フィル名曲アワーinオリックス劇場」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席 第五〇回スベシヤル」** (みなとカルチャー)招待券をへア五組に。

● **藤かほり「三浦大チャリティショー」** (芸能ガイド)招待券をへア三組に。

● **あんがにおまの一座「夫婦同い歳「髪頼み」** (演劇ガイド)招待券をへア一組に。 **分八** 一八日必着。

● **ガットネロ「午後のシャンソン」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。